

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

CHAROCLER

エヴァンゲリオン・クロニクル

27

定価 **690**円(税込)

2010/8/10

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン零号機 **C**

Character Sheet

碓ゲンドウ **B**

Tactics Sheet

人類補完計画

Timeline Sheet

最後のシ者

Installation Sheet

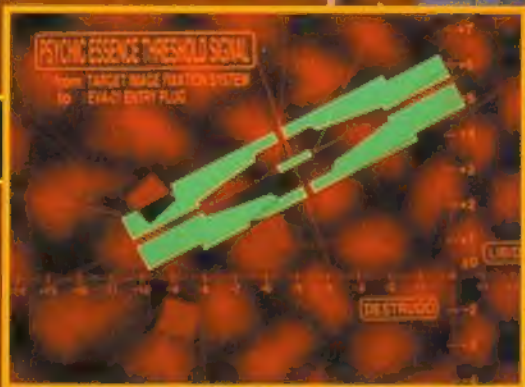
NERV **E**

Technology Sheet

サルベージ

Extra Sheet

用語辞典／
放映リスト／トピックス



特製バインダー 発売中!

EVANGELION

CHRONICLE

27

目次 | CONTENTS

Mechanic Sheet メカニックシート

エヴァンゲリオン零号機 **C**

01-04

Character Sheet キャラクターシート

碇ゲンドウ **B**

05-08

Tactics Sheet タクティクスシート

人類補完計画

09-12

Timeline Sheet タイムラインシート

最後のシ者

13-16

Installation Sheet インストールシート

NERV **E**

17-18

Technology Sheet テクノロジーシート

サルベージ

19-20

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

21-22

放映リスト

23-26

トピックス

27-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト ▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶ <http://www.evastore.jp/>



ココからGO!

[発行日] 2010年8月10日

[発行] 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045

東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

[発行人] 小河原和世

[編集人] クロス中山慶子

[チーフエディター] 安部 翠

[印刷] 大日本印刷株式会社

©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

[編集協力] 株式会社ウィーヴ (石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな)

[監修] 株式会社ガイナックス

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>

[編集協力] 有限会社 メガロマニア (富田英樹/高村泰稔/渡邊洋三/
加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)

[執筆] TRAP (佐々木まりな)/ぼろり春草

[イラスト] 市川裕文/深野洋一 (M.I.C.) / 森下直親/射尾卓弥

[デザイン] ローカル・サポート・デパートメント (島田英明/角田正明)
株式会社 インフォビジョン (河野幹哉/安川純史/田中治彦)

<新訂版>

[編集協力] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (伊藤桃香/米良真一)

[デザイン] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (松本優典)

●書店向け注文受付センター

(書店様からのご注文を承ります)

☎ 03-5212-5311

(月~金 9:30~17:30 土日祝日を除く)

FAX 03-5212-5312

●読者サービスセンター

(本誌関連の一般的な質問を承ります)

☎ 0570-008-109

(月~金 10:00~18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2007年に刊行された「エヴァンゲリオン・クロニクル」
(発売：ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受付センターに電話またはFAXで

☎ 0120-300-851

(9:00~21:00 年中無休)

FAX 0120-834-353

(定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)

2. インターネットで

<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)

※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送

(「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受付センターまでご連絡ください。)

特製バインダー発売中!!

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー2・3巻の2冊セットを通常価格1,790円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。

※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。



下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等することはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと発送、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳密に管理いたします。 4. 個人情報の提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きがとれない場合もあります。(購入に関するお問い合わせは定期購読受付センター：0120-300-851へ) 5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパン(CRM部長 電話番号：03-5309-8286) *受付時間 10:00-18:00 (土日祝日、弊社休業日を除く) *弊社ウェブサイトでも個人情報保護の詳細をご案内しております。 <http://deagostini.jp/security/>



汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン

零号機(改)



ロンギヌスの槍を投擲した蒼きEVA



NERV

EVA-00'

PROTO TYPE

僚機のバックアップを務めた 試作機

起動に成功したあとは安定した稼働を見せ、主に僚機のバックアップを担当したEVA零号機。操縦者とのシンクロ率は高くはなく、単機で使徒と渡り合う戦闘力は持たなかったものの、試作機としては十分実戦に耐え、戦果を残した点は評価に値しよう。

使徒との交戦記録

- 第3使徒サキエル
交戦せず
- 第4使徒シャムシエル
交戦せず
- 第5使徒ラミエル
防御担当
- 第6使徒ガギエル
交戦せず
- 第7使徒イスラフェル
交戦せず
- 第8使徒サンダルフォン
交戦せず
- 第9使徒マトリエル
バックアップ担当
- 第10使徒サハクィエル
チームプレイにて殲滅
- 第11使徒イロウル
交戦せず
- 第12使徒レリエル
交戦後退却
- 第13使徒バルディエル
敗北
- 第14使徒ゼルエル
敗北
- 第15使徒アラエル
単独にて殲滅
- 第16使徒アルミサエル
自爆にて殲滅
- 第17使徒タブリス

DATA

機体: EVA-00' PROTO TYPE

零号機 (改)

搭乗者: 1st Children

綾波レイ

主武装: WEAPON

スナイパーライフル

バレットライフル

プログレッシブ・ナイフ 等

機体配色: COLOR



A.T.フィールド、全開

(綾波レイ)



前面 FRONT



背面 BACK



側面 SIDE

関連事項 RELATED MATTER

- 碇ゲンドウ
- E計画
- 綾波レイ
- アダム



NERVの最高司令官。実の息子にすら冷淡で独善的な態度を崩さないが、綾波レイに対しては、なぜか親愛の情を見せる。

零号機の交戦記録

NERV本部が所持する3機のEVAの中で、実戦回数は最も少ない。プロトタイプゆえに戦闘力は劣り、単独の際立った戦果はないが、操縦者の堅実な運用により、チームプレイが必要な局面では重要な働きを見せている。

第10使徒サハキエル戦

サハキエルを受け止めるため式号機と同時に使徒の落下地点に急行。A.T.フィールドで使徒を支え、敵フィールドを中和してコアを直接攻撃できるようにアシストした。



プログレナイフで敵A.T.フィールドを切り開く。

第14使徒ゼルエル戦

左腕の修復が終わらぬまま出撃する零号機。式号機を下してジオフロント内を侵攻するゼルエルに対し、n²爆弾を抱えて特攻するも防御されてしまい、返り討ちにあう。



爆風の中、ゼルエルに顔面を切断されて活動停止。

第5使徒ラミエル戦

起動実験に成功したのも束の間、調整のままならない機体にてヤシマ作戦における初号機の防御を担う。その際にラミエルの加粒子砲によって装甲は融解、大破してしまう。



急造の盾を用い、加粒子砲から初号機を守り抜く。

第12使徒レリエル戦

レリエルとは距離を置き、遠距離からの狙撃によってバックアップを担当。初号機が虚数空間に飲まれた際に退却、同機救出に従事するも初号機は使徒を倒し自力脱出した。



狙撃した使徒は影でしかなく、効果はなかった。

第15使徒アラエル戦

ポジトロンスナイパーライフル改を用い、衛星軌道上のアラエルに長々距離射撃を試みるが、A.T.フィールドによって防がれてしまう。その後ロンギヌスの槍の力にて殲滅。



ターミナルドグマから持ち出したロンギヌスの槍。

第9使徒マトリエル戦

EVA3体のチームプレイにおいてバックアップを担当。マトリエルの溶解液を受け縦穴に落下したバレットライフルを回収、オフenseの初号機へとパスする役目を担った。



縦穴へと降下してバレットライフルを回収した。

第13使徒バルディエル戦

待ち伏せによりバルディエルの背後をとるがバレットガンを撃つことをためらう。その隙に組み敷かれ、腕に侵食を受けたため左腕部を切断。中破により活動不能となる。



一瞬で背後を取られ、組み敷かれてしまう零号機。

第16使徒アルミサエル戦

アルミサエルの先制により侵食を受け、生体融合されていく零号機。援護に出撃した初号機の侵食を阻止するため、使徒をA.T.フィールドにより抑え込み自爆、殲滅した。



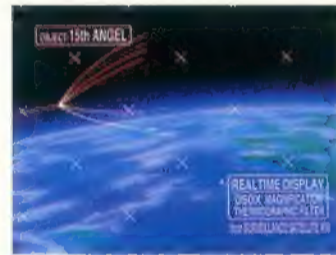
A.T.フィールドを反転させて使徒を抑え込み自爆。

零号機の使用兵器 — 銃火器②

ヤシマ作戦において戦自研より徴収した試作陽電子砲を改良したポジトロンスナイパーライフルを、さらに改修した長々距離射撃用の陽電子砲。第3新東京市の電力を用いた大出力を持つと考えられる。なお、銃身には「SUPER-POSITRON」と表記。衛星軌道に出現した第15使徒アラエルに対して用いられた。

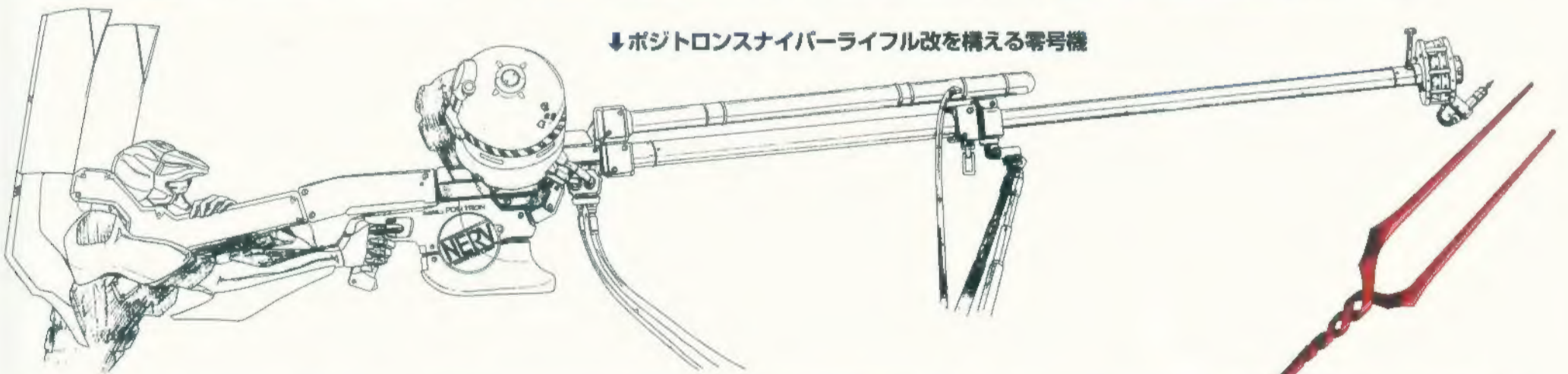


長距離射撃の際は精密射撃用のバイザー越しに対象を照準。磁場や重力、地球の自転の影響を受けて直進しない陽電子には細かい誤差修正を要するため、火器管制が必須となる。



ポジトロン20Xライフル以上の長々射程を持つが、衛星軌道上のアラエルには届いたもののA.T.フィールドを貫くほどのエネルギー量を持たず、陽電子は弾かれて四散してしまう。

↓ポジトロンスナイパーライフル改を構える零号機



零号機の使用兵器 — 特殊兵器

零号機は、格闘武器や銃火器などの通常兵器のほかにも、盾のような特殊な兵器を用いる機会が多い。これは、五指のマニピュレーターにより人間が扱える

全ての武器を運用できる、EVAならではの柔軟さであろう。使徒という未知の存在に対し臨機応変の対処をするには、人型の兵器が最適であったと考えられる。

←ロンギヌスの槍

A.T.フィールドに対する絶対的な突破能力を持つ槍。南極から移送されており、ロステクノロジーに該当する代物と考えられる。



第14使徒ゼルエルに対して使用。コアに直接触れて起爆させるという非常識な使われ方をされたが、防護シャッターのようなもので防がれ、使徒にダメージを与えることはできなかった。



多様なバリエーションが見られるn²兵器のひとつ。起爆タイミングは操作可能であり、使徒のコアに突き出した瞬間に爆発させている。

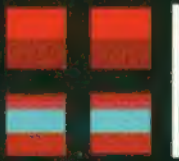
第15使徒アラエルに使用。投擲時には二股の先端が収束、意志を持つかのように使徒へと向かう。A.T.フィールドに接触すると螺旋構造が逆立ち、押し込むようにフィールドを貫通する。



Illustration by Youichi Fukano



亡き妻の
影を追い



NERV



碇ゲンドウ

GENDOH IKARI

人類補完に
執心した男

個人情報

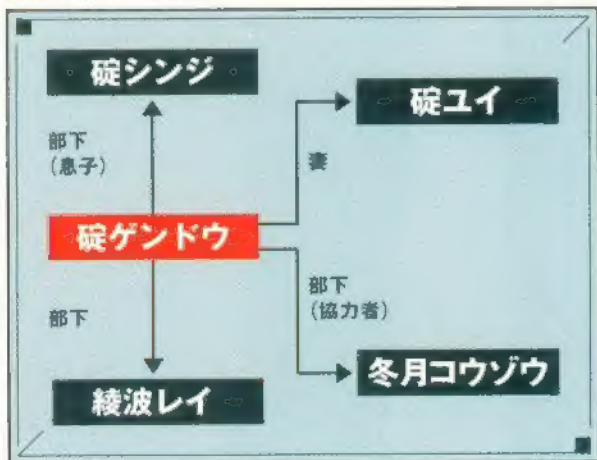
名前	碓ゲンドウ
年齢	48歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1967/04/29
血液型	A型
所属	NERV/最高司令官

愛する妻との再会——それが、特務機関NERVの最高司令官、碓ゲンドウが望んだものだった。セカンドインパクト以前よりゼーレとの関わりを強め、裏社会を熟知してきたゲンドウ。20世紀最後の年を転機とし、彼の野望は一気に加速していく。この頃に始動したと考えられているアダム計画とE計画、その後提唱された人類補完計画と、これらの人智を超えた壮大な計画は、全人類の未来を左右する最重要事項となった。裏死海文書の存在があったとはいえ、このような超規模な構想を持ち続けてきたゲンドウはやはり、人類の大局を見る指導者の才に恵まれた人物だったのだろう。彼が望んだ「新しい人類」の歴史は、人工進化研究所、ゲヒルン、NERVを率いたその手により確実に刻まれていった。

しかし、E計画進行中にユイを失ったことは、彼の心に変化を与えていた。ユイを失った瞬間から、地球規模の計画である人類補完計画に「ユイとの再会」という極私的な目的を混交させることとなったのである。まるでユイのクローンのような綾波レイを常に側に置き面影を重ねて接するという行為は、人類の補完に必要な不可欠であると同時に、彼の計画に唯一綻びを生じさせる要素ともなった。

その冷徹な面持ちの裏で、ユイとの再会という一点を目指したゲンドウ。NERVにおいてその事実を知る者はほぼ皆無であり、その功利的な行動を止める者もいなかった。妻に対する大き過ぎる愛情を抱えつつ、地球規模の計画遂行に執心したひとりの男。それがゲンドウの真の姿であったといえるだろう。

人物相関図



関連事項

- 碓ユイ
- 碓シンジ
- 綾波レイ
- 冬月コウゾウ
- NERV



碓ゲンドウの妻で、巨大組織ゼーレをバックに持つ才能ある遺伝子工学者。EVAへの接触実験によって消失した。

表情/私服



←不遜とも取れるゲンドウの自信に満ちた言動は、目上の者の不快感を煽ることも多かっただろう。



ユイ消失後、1週間の失踪を経てゲヒルンへ戻ってきたゲンドウ。後に赤木ナオコは、これ以降彼の様子が変わったと語っている。



→非常に目つきが鋭いゲンドウ。整った顔立ちをしているが、その相貌は人に好感を与えるものとは言い難い。



→悪い噂が絶えなかったという若き日のゲンドウ。その微笑にも、世を拗ねたような人となりが見られる。



←喧嘩の末に警察にまで連れて行かれながら、悪びれた様子も見せない。その不敵ともとれる態度に、いわれの無い文句をつけられることも多かったようだ。

背面

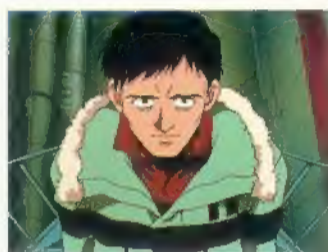


正面



EVAが存在しなければ使徒によって人類は滅亡していたかもしれない。その可能性を考えれば、彼の功績は計り知れない。

碓ゲンドウ の活動記録



冬月に「この時代にきれいな組織など生き残れませんよ」と語るゲンドウ。手段を選ばない活動に手を染めていることを、暗に認めていた。



有無を言わさぬ鋭い口調は当時から変わらない。彼の元には資金、人材共に申し分なく揃っており、それなりの人望もあったのだろう。

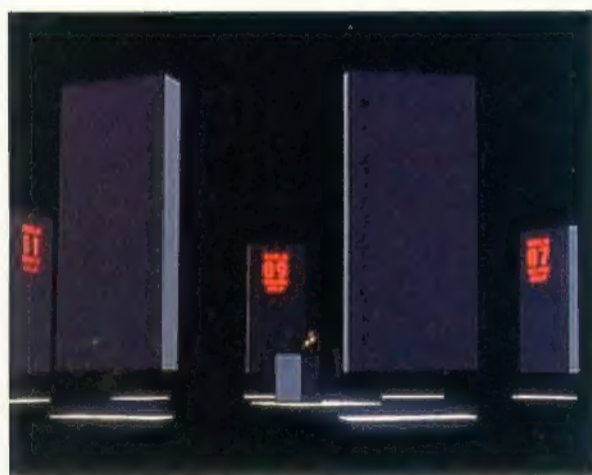
→かつての仕事場では白衣を着用していたようだ。人工進化研究所では遺伝子工学の研究も行なわれていたため、彼自身も実験に携わることがあったのかもしれない。



NERVで着用しているサングラスは比較的歴史の浅い物のようで、かつてはシンプルな眼鏡をかけていた。さらに、人工進化研究所発足当時の彼は、まだ眼鏡が必要ない程度の視力を保っていたようだ。

妻であるユイを通じてゼーレとの強いパイプを手に入れたゲンドウは、その野心を隠すことなく様々な活動に着手していく。西暦2000年には葛城調査隊に参加して南極に赴いているが、セカンドインパクトの前日にすべての関係資料と共に帰国。その後の情報操作においても手腕を発揮したと見られ、未曾有の災害は大規模隕石の落下に因るという事実が調査結果として公式に発表される運びとなった。

2002年には、国連直属の研究組織である人工進化研究所——それを隠れ蓑とした調査機関ゲヒルンの設立、そして人造の巨人を自らの手で作るというE計画が始動。ゲンドウは冬月コウゾウ、赤木ナオコら優秀な人材を得て人類の新たな歴史を切り開いていくことになる。なお、この頃の彼には莫大な資産があったことが冬月の調査で判明しており、これら一連の活動の資金源として、ゼーレが常に彼の背後にいたことが推測される。さらにアダム計画、初期の人類補完計画の発案を経て、ゲヒルンはNERVへと姿を変える。以降はNERV最高司令官として使徒を殲滅しつつ、真の目的である人類補完計画を発動すべく活動することとなる。ちなみに、ゲンドウとユイは2000年に一子を儲け、子供が男ならばシンジ、女ならばレイと名付けようとしていたという。ゲンドウが遂行しようとした人類補完計画のシナリオは、奇しくもそれぞれの名を与えられたふたりによって大幅に書き換えられることとなった。

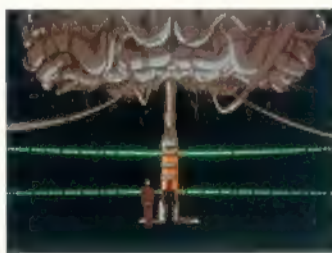


ゲンドウは表向きにはゼーレに従いつつも、ユイと再会するため、当初からゼーレへの裏切りを含めた計画を立てていたようである。

裏死海文書に基づいて世界を裏から操る組織、ゼーレ。ゲンドウにとっての碓ユイとの繋がり、当初はゼーレとの繋がりをも見込んだものだった。ゼーレとゲンドウの間には、早々に同じ目的を持つことによる協力関係が築かれた。しかし、15年ぶりの使徒襲来以降、双方が思い描く計画内容にズレが生じていることにゼーレ側が気づき、関係には徐々に亀裂が生じ始めた。両者の溝は、ゼーレの計画に不可欠と考えられたロンギヌスの槍をゲンドウが独断で使用した件で決定的となる。この両者の出会いと衝突が、結果的に初号機を依代とした人類補完計画の引き金になったといえるだろう。



人類補完計画 における役割



ゲンドウにとってのレイは、人類補完計画における希望の依り拠である。ユイと再会できれば、レイは必要なくなる道具であったのかもしれない。



ゼーレの介入を気にも留めず、ゲンドウは自らの人類補完計画を進めていた。その強引な手法に冬月が危惧を抱くことも珍しくはない。

E計画、アダム計画、人類補完計画などを推進、調査した人工進化研究所及びゲヒルン。そして、それらの計画と使徒殲滅を遂行すべく組織されたNERVは、すべてゲンドウが最高責任者を務め、背後にはゼーレの影が見え隠れる。すなわち、表立った活動ができないゼーレの計画を実行に移していたのが、ゲンドウであったのだ。しかし、ゲンドウはユイへの想いを胸に秘めつつ、冷徹な指揮官という役割を演じながら自らの人類補完計画発動の契機を狙っていたのだろう。最終的に彼の目論見自体は失敗するが、発動直前に至るまでゲンドウの私的な願望が色濃く出た計画であったのは間違いない。

人類補完計画

進行時の行動



レイに向かって「私をユイの元へと導いてくれ」と語る姿から、レイ自身ではなく、その背後に存在するユイの姿を見続けてきたことが窺える。



補完計画発動の直前、ゲンドウを拒否するレイ。希望に満ちた彼の未来から絶望へ突き落とされ、ゲンドウは憔悴しきった様子でレイに追い続けた。

アダムとリリスの禁じられた融合に始まる、ゲンドウが想定した人類補完計画のシナリオ。戦略自衛隊によるNERV侵攻、EVAシリーズ襲来などの危機的状況を見無視するかのごとく、ゲンドウはレイを伴いターミナルドグマを訪れた。ついに、自身が長年温め続けてきた計画を実行する時が来たのである。アダムが埋め込まれた右手をリリスの魂が宿るレイの身体にさし入れる際も、ようやくユイと再会できるという、感慨のこもった声でレイに語りかけるゲンドウ。しかし、レイがゲンドウを裏切ってリリスと融合する道を選んだため、計画は発動直前で彼の手を離れ、シンジたちへと託されることとなった。



ゲンドウを「かわいい人」と言うユイ。冷徹な顔からは想像もつかない形容に、夫婦の確かな繋がりを感じることができる。

かつて京都大学の優秀な学生だった碓ユイは、その頃に知り合った六分儀ゲンドウと交際を始めた。ゲンドウがゼーレに近づくためにユイと交際しているという噂が絶えず、冬月もそのように認識していたようだ。彼は程なくしてユイと結婚、姓を碓と改め、長男シンジをもうけている。しかし、その結婚生活は、ユイの消失によって終わりを迎えることとなる。先の噂の真偽は定かではないが、ユイに対する大きな愛情があったということは、彼がユイとの再会のために人類補完計画を練り上げたことから明らかである。人類の補完とはすなわち、ユイを失ったゲンドウ自身の心の補完でもあったのだろう。

碓ユイとの関係



ゲンドウに「イヤな男だ」という印象を抱いた冬月。ゲンドウとの出会いが彼の生真面目ともいえる生活を変え、巨大な計画に身を投じさせた。



冬月の方が年上でもあるため、ゲンドウの理解者であり相談役でもあるようだ。また、ユイのことも度々話し、気にかけている様子が窺える。

NERVの最高司令官と副司令官として、様々な計画を遂行してきたゲンドウと冬月。ふたりの出会いは約16年前にまで遡る。当時、京都大学で形而上生物学を研究していた冬月は、同大学の学生であった碓ユイを介して六分儀ゲンドウと知り合う。しかし、その初対面はゲンドウが酔った末の喧嘩で警察に留置され、冬月がその身元引受人になるという意外なものであった。その後、ゲンドウはセカンドインパクトの真相を暴露しようとした冬月を、逆にゲヒルンに引き込むことに成功。ゲンドウが目論む人類補完計画の真の目的を共に見据えながら、ゼーレを欺きNERVを率いる同志となったのである。

冬月コウバウとの関係



司令という顔に隠されていた脆い部分を、初めて他人に吐露したゲンドウ。ユイと再会した瞬間、彼を束縛するすべての枷が外れたのだろう。



ゲンドウの最期の言葉は「すまなかったな、シンジ」という息子への謝罪であった。直後、そのシンジの象徴たる初号機の中へと消えていく。

リリスとなったレイが全人類の前に現れた時、ゲンドウの元にもまた、彼が待ち続けていた人物が現れた。力なく横たわる彼の傍ら、消失した当時のままの姿で立つ碓ユイ。おもむろにシンジに対する心情を打ち明けるゲンドウに、ユイは「シンジが怖かったのね」とすべてを包み込むような微笑みを浮かべる。ゲンドウのシンジに対する冷たい仕打ちは、「自分が人から愛されることが信じられない」という彼自身の内面がもたらしたものだ。最愛のユイに見守られながら、初号機に飲み込まれるかのようにL.C.L.へと帰した瞬間、ゲンドウ自身の補完は完遂されたといえるのかもしれない。

最期の瞬間に見たもの

人類補完計画

完全なる単体生物への
人類の進化

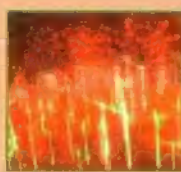
TACTICS SHEET

人類補完計画——それは不完全な群体として進化の袋小路に入り込んだヒトという種を、肉体的、精神的に融合し、完全なる単体生物へと人工的に進化させる計画である。使徒殲滅は計画の発動に必要なステップであったようで、裏死海文書に記された使徒をすべて排除したことにより、ゼーレは計画の遂行を決定した。しかし、ゼーレにとって、この段階における計画の準備状況は、万全でなかったといえる。NERV総司令の碓ゲンドウとゼーレの間では、計画に対する考え方にズレが生じており、発動に必要なとされたマテリアル(ロンギヌスの槍、リリス、アダム、およびEVA初号機)のほとんどはNERV側の手中、さらにロンギヌスの槍は第15使徒戦において失われていたのである。この状況を修正すべくゼーレは、NERV本部接収作戦を強行。さらに計画遂行者ともいえるEVA量産機を投入して人類補完計画の発動、すなわちサードインパクトを起こそうと考えたのである。

一方、碓ゲンドウが描いていたシナリオは、ヒトの進化(だけ)ではなかったとされる。あくまでも推測に過ぎないが、彼の目的は、EVA初号機に取り込まれた妻、碓ユイの魂との“再会”にあったとの説が有力である。だが、リリスの意志とリンクしていたと思われるファーストチルドレンがその思惑に反したため、ゼーレ、碓ゲンドウ双方の理想とは異なる形で人類補完計画は発動した。また、人類補完計画には、ゼーレ、碓ゲンドウとも異なる別の意思が介入していたとの説もある。それはかつてEVA起動実験で消失した科学者、碓ユイのもので、彼女は碓ゲンドウやゼーレとも異なる目的でE計画に参加していたとも言われている。ただ、どちらにしても、アダムとファーストチルドレン＝リリスとの接触は行なわれ、帰還したロンギヌスの槍とEVA初号機も融合。人類補完計画が発動し、人類は一元的な存在へと還元されていく。これにより魂の補完も開始されるが、それがいかなる形へ収束するのかは、初号機に搭乗していたサードチルドレンの選択に委ねられることとなった——時に西暦2016年、かくして人類の補完は行なわれたのである。

RELATED MATTERS

- 人類補完計画
- サードインパクト
- ゼーレ
- アンチA.T.フィールド
- L.C.L.



人類補完計画とは、人類を人工進化させることである。アンチA.T.フィールドの発生により、人は完全なる単体生物となる。



人類補完計画の発動——ファーストチルドレンと融合したリリスは、その姿をファーストチルドレンのそれに変容させ巨大化。アンチA.T.フィールドを発生させる。それは15年前のセカンドインパクトと酷似した状況であった。人類補完計画の発動は、人類を滅亡させるとされてきたサードインパクトの発生と同義であったといえよう。

人類補完計画の発動

EVA量産機の投入の目的は、EVA式号機の殲滅よりも、人類補完計画を発動させることにあった。式号機の殲滅直後に初号機が出現し、それに呼応するようにロンギヌスの槍が月面より帰還。量産機は初号機を拘束してS²機関を解放、サードインパクトが発生して人類補完計画は発動したのである。その後、全人類は一元的な存在へと還元されていくのだが、その過程において複数のファーストチルドレンが目撃されたと言われている。また、計画発動の初期段階は、しばらくNERVオペレーターたちによって観測されていたとされ、ジオフロントがEVAシリーズもろとも超高度まで上昇していたとの説もあるようだ。



人類補完計画をNERV本部にて強引に発動させたゲル・キル議長。計画の発動に、ある意味でもっとも希望を抱いて臨んだ人物であった。

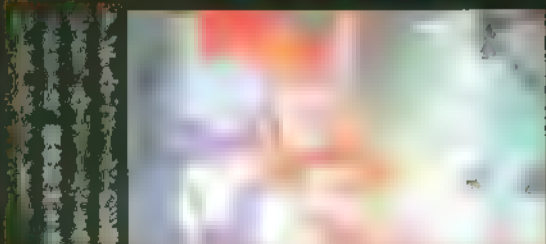


セレとは別個に、タチコマの内部でアダムとリリスの禁断の接触を試みたゲル・キル議長。彼は、彼女の思惑とは違った形でリリスは覚醒した。

技術圖書

アンチA.T.フィールド

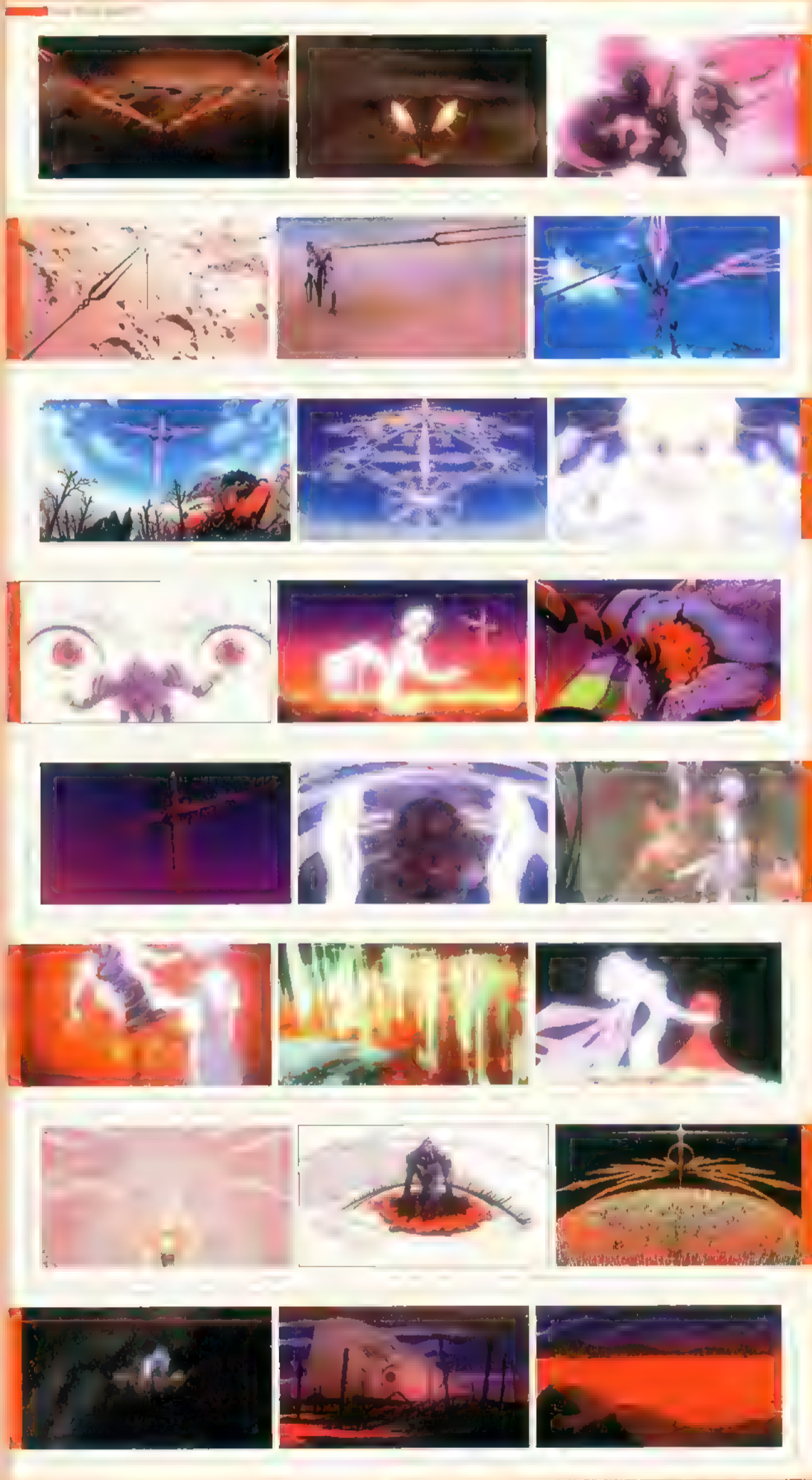
通常、A.T.フィールドとは使徒、およびEVAのみが発動させることのできる、他者からの物理攻撃を受け付けない「位相空間」として認識されていた。だが、実際には誰しもが持っているもので、生命が他者と自分とを区別するために普遍的に有する自我境界そのものである。それがヒトの形状を維持しているともいえた。アンチA.T.フィールドは、その自我境界を消失させる効果を持つ。これに干渉されると、ヒトはその個体形状を維持し続けることが困難となり、結果として心身へと変化してしまうものと考えられる。つまり人類補完計画では、このアンチA.T.フィールドを用いてヒトが持つ「心の壁」を消失させ、人類を単一的な生命体へと還元しようとしたのである。



人類を完全なる生命へと進化させる計画であった人類補完計画。その発動はサードインパクトの発生そのものも意味していた。NERV本部があるジオフロントは「Lilith's Egg」とも呼ばれており、計画遂行の舞台には恰好の場所でもあった

人類補完計画発動時の現象

下記のような現象が発生したとされるも、その真相は定かではない。



タクティクスシート

actics Sheet

人類補完計画

Sheet

29

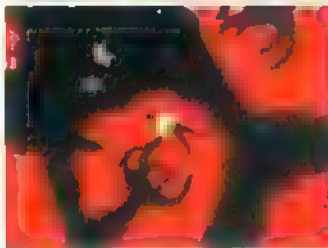
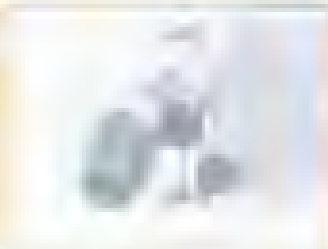
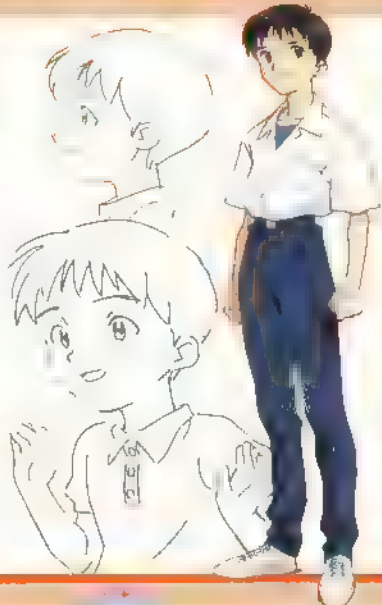
THE HUMAN INSTRUMENTALITY PROJECT

それぞれのケース

人類補完計画は、ヒトが精神的に常に持つ“魂の欠落”を相互的に補完し合い、それに起因する心の不安や恐怖を解消することができると考えられていた。NERVメンバーをサンプルに、魂の補完がいかに進められたのかを確認したい

CASE #01 碓シンジの補完

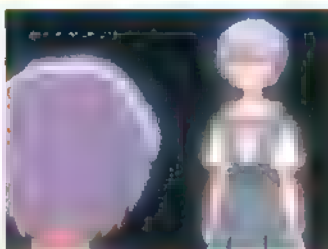
他人との接触を常に恐れ、自己の存在理由を問いつけてきたサードチルドレン＝碓シンジ。「自分が必要とされている」ことへの確認として、彼はこれまでEVAに乗り使徒と戦ってきたのだが、もっとも親近感を覚えた友人と呼べる存在が使徒であり、その手で排除してしまったことから、その内在していたトラウマと対峙することとなる。それは幼い頃に父親＝碓ゲンドウに見捨てられたと思いついたことに起因する、他者からの拒絶感であった。補完計画が発動し、他者との魂が溶け合う中で碓シンジは、心の閉塞だけでは何も生み出さないことを感じる。そしてここにおいても、良い理由、自身の想いにあることを知る。



自己の存在理由を自ら、そして自分の中の他者へと問う。続ける碓シンジの父親でありNERV最高司令官である碓ゲンドウに幼い頃に見捨てられたとの思いから、「必要である」と認めてもらいたいためEVAに乗り続けてきた彼。だが、そのEVAを用いて、好意を抱いたカヲルを使徒として手にかけてしまった。

CASE #02 綾波レイの補完

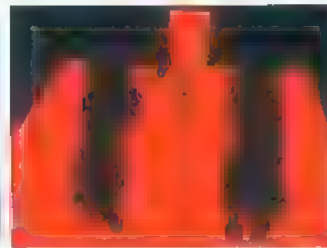
アイデンティティが極めて希薄な存在であるファーストチルドレン＝綾波レイ。出自の問題から、ここまで碓ゲンドウに極めて従順であった彼女だが、サードチルドレンとの出会いと行動を共にした経験から、碓ゲンドウへの従属とは異なる、他者との絆を欲するようになり、そのため自己の存在意義を求めようになっていく。補完計画が発動により、綾波レイと呼ばれる存在はすべて無へと帰すはずであり、それがいわば“生きてきた目的”であったはずだが、そこには恐怖すら感じていた。それは彼女の自我が為せる業であり、補完計画によって希薄な自我が消滅してしまう可能性への恐れなのであった。



綾波レイは、心に根ざした自我と存在意義について、3人の自分との対話によって探り続ける。碓ゲンドウとの従属的な関係性に、自己の存在理由を確認していたはずの彼女。たかその求めに応じて無へ帰帰することに、恐れさえ抱き始める。それでも碓ゲンドウの呼びかけに反応し、人類補完計画が発動する。

CASE #03 惣流・アスカ・ラングレーの補完

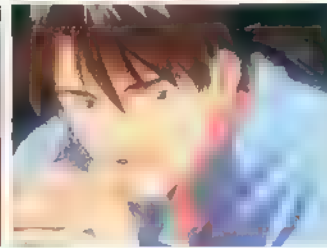
過剰といつていいほどの自信家であったセカンドチルドレン＝惣流アスカラングレー。それは、自己を強くアピールすることで、他人に自己の存在を認識させようとする一種の代償的な証明行為でもあった。他人に自分を認めさせることで、自分が無価値ではないことを確認したかったのだ。しかし、その自信が失われた時、彼女の心には孤独に対する恐怖と絶望しかなかった。自分も、他人も、すべてを嫌悪し否定する彼女。それは幼い頃の実母の自殺がもたらすものであった。独りで生きることを望む彼女であったが、それは他者に自立している姿を認めさせたいという願いの裏返しでもあった。



惣流・アスカ・ラングレーは自身に価値を見いだせなくなっていた。他人への嫌悪と同等の自己嫌悪をする彼女。幼い日に見た心霊喪失した母親の姿やその自殺現場がトラウマとなり、他者、自分を「見たい」「殺したい」「殺さないで欲しい」と望むよう、なるが自身の価値を他者が認識することで自己確認ができなくなっていたのである。

CASE #04 葛城ミサトの補完

碓シンジや惣流アスカラングレーの保護者としても振る舞ってきたEVA 13機の指揮官、葛城ミサト。補完計画の本質を知り、それを「馴れ合い」と否定する彼女だが、その心の馴れ合いを求めていたのもまた事実であった。15年前に父と死別した彼女は、母を助けようと潔癖な“よい子”で居続けてきたが、そんな自身に対して嫌悪もしていた。恋人であった加持リョウジとの情事は、“よい子”の仮面を必要としない安息であり、同時に彼を通して父親を感じていた。それを利己的な快楽と糾弾する理性とそうでないと否定する感情がせめぎ合う。だが、いずれにせよ、彼女は馴れ合う他人を必要としていた。



葛城・ミサトも、自己の中の他者と対話を続ける。幼い頃から不本意な嫉妬を考へたこと願っていた彼女。恋人＝加持リョウジとの情事の中でその願望を満たすか、その姿を他人に、知れることは恐れた。一律背反する想いにさいなまれる彼女であるか。結局は安息を与えてくれる他者が必要であったようだ。

Illustration by Naohika Morishita



地球規模にまで巨大化したリリスから発生した強力なアンチA.T.フィールドによって、人類は“他者と自己とを区別する自我境界”=A.T.フィールドを保ち続けることが出来なくなり、ついに個体生命としての肉体は消滅。その結果、生死を問わず等しくL.C.L.へと変貌してしまふのであった。

特記事項

白い巨人リリスとファーストチルドレンの関係

過去に関する記憶を全て抹消された、EVAパイロットの中でも特異なファーストチルドレンだが、サードインパクトにおいてターミナルドグマ内に保管されてきたリリスと融合。リリスの姿をファーストチルドレンのそれに容れさせたことから、リリスを司る存在とも推測される。また、第13号機機体において“覚醒”したファーストチルドレンだったが、実はターミナルドグマ内においてアロウニングされた個体であることも、のちに判明している。これらを考え合わせると、ファーストチルドレンはリリスから人工的に創られた生命体であったと理解するのが妥当ではないだろうか。



リリスと融合したファーストチルドレン。地球規模にまで巨大化し羽を広げた姿は、セカンドインパクト時に観測されたとされる光の巨人を思わせるものがあった。

●人類補完計画発動時のファーストチルドレンの動向

① 碓ゲンドウとの接触

ターミナルドグマに於いて碓ゲンドウはファーストチルドレンと接触し、ゼーレとは別個に補完計画の発動を準備。



② アダムとの同化

碓ゲンドウの右手に移植されていたアダムをファーストチルドレンの肉体に接触させ、その同化を促す。



③ リリスへの接近

碓ゲンドウを拒絶しアダムのみ同化したファーストチルドレンはリリスへ接近。「光の巨人」の一翼。



④ リリスとの融合

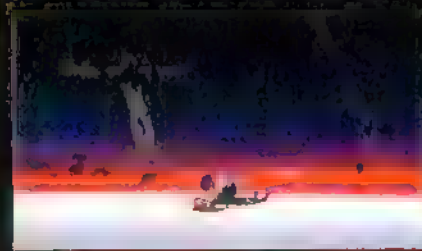
ファーストチルドレンがリリスと融合した結果、その姿はファーストチルドレンに容れられ、地球に巨大化してゆく。



作戦報告

人類補完計画遂行後の世界

人類補完計画は、最終的にはEVA初号機とそのパイロットであるサードチルドレンの意志に委ねられることとなった。それはゼーレや碓ゲンドウが意図したものとは異なる形ではあったが、人類は皆しのびとなり、種の補完はなされたと考えられる。だが、サードチルドレンはふたたび人の世界を望み、初号機と離れて地上でセカンドチルドレンと共に実体化する。しかし、彼が戻った世界に元の景観はなく、地上に残されたのはL.C.L.の海、および量産機や地球規模にまで巨大化したリリスの残骸であった。



サードチルドレンが実体化した際には、サードインパクトの影響を受けている世界に実体化した。世界は荒廃していた。



世界の如く文字を意味する補完計画に「補完」はサードチルドレンに容れられた。補完計画は、碓ゲンドウの意志に委ねられた。

新世紀年表

NEON GENESIS
EVANGELION

第三十七回 最後のシ者 FIFTH CHILDREN

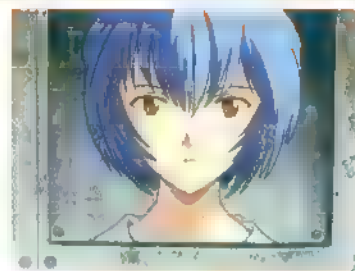
【本編】
【補遺】
【解説】
【設定】
【用語】
【登場人物】
【声優】
【スタッフ】
【制作】
【放送】
【DVD】
【Blu-ray】
【書籍】
【グッズ】
【その他】

A.D.2015

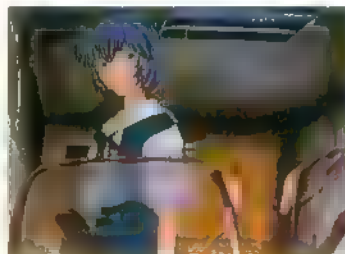
●第3新東京市

01 レイ、自らの涙に驚く

退院して、アパートの自室へと戻ってきたレイ。彼女の部屋は相変わらず、人の匂いに乏しい冷たい雰囲気があった。そんな中でレイは包帯を解く。だが、その下は傷跡らしきものひとつ無い——大爆発の中から救い出されたはずなのに——。しばしジッと鏡を見つめていたレイは、ふとチェストに置かれたゲンドウのメガネを手にとると、思わず握り潰そうと力を込めた。が、その手に涙がこぼれ、レイはハッとして手の力を抜いた。「これが涙……。初めて見たはずなのに、初めてじゃないような気がする。私、泣いてるの?」



自宅で包帯を解いたレイ、しかしその下には、傷跡ひとつ無いきれいな肌があった。



レイにとって"絆"を意味するものであったはずの、ゲンドウのメガネ。しかし、それを手にしたレイは、思わず握り潰そうとしてしまう。きしみを上げるメガネ同様に彼女の心が疼き、気がつくとその手には涙がこぼれ落ちていた。

A.D.2015

05 リツコ、ターミナルドグマを案内する

ターミナルドグマへ入ろうとしたリツコの背中にミサトの銃が突きつけられる。「この秘密、この目で見せてもらうわよ」承諾するリツコの隣にはシンジの姿があった。3人は「人工進化研究所3号分室」と書かれた、殺伐とした医療施設へやって来た。レイの部屋に似ていると感じるシンジにリツコは言う。「彼女の生まれ育ったところよ」続いてリツコが案内したのは、広大な空間。そこにはEVAの骨格が多数破壊されていた。「あなたのお母さんが消えたところでもあるわ」どこか冷酷に、リツコはシンジへと告げる。



ターミナルドグマを案内するようリツコを勧めるミサト。リツコはシンジも一緒だと言う。



大深度地下へとエレベータで向かった3人が辿り着いたのは、「人工進化研究所3号分室」のプレートがかかった奇妙な医療施設。レイの生まれ育った部屋。そして、10年前に破壊されたEVAの残骸で埋め尽くされた広大な空間だ。

2015年

レイ、自らの涙に驚く

リツコ、
ゼーレから尋問を受ける

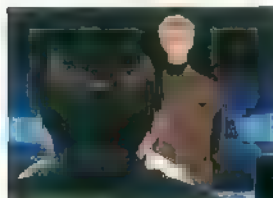
ミサト、決意を固める



A.D.2015 ● ?

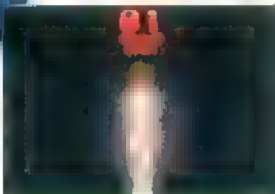
02 リツコ、ゼーレから尋問を受ける

その頃、ゼーレによるリツコへの尋問が行なわれていた。裸体をさらしての凌辱的なもの。「私は何の屈辱も感じていませんが」と、表情を変えることなく淡々と答えるリツコ。その毅然とした態度に感服するゼーレ。しかしゼーレの口から、リツコは自分がレイの身代わりとして出頭させられたことを知らされる。「レイの代わりに、私が」心で反響するリツコ。ほんの少し、その表情にはかけりが見えた。



「ゼーレの老人たちには別のものを差し出している。レイの尋問を拒否したゲンドウの言う"別のもの"とは、リツコのことだ。」

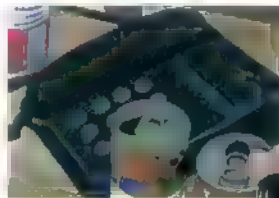
全裸という凌辱的な尋問にも冷静さを失わないリツコだが、キーン議長から自分がレイの身代わりであること知らされれば動く



A.D.2015 ● 第3新東京市

03 ミサト、決意を固める

マンションの自室で、ミサトは留守番電話に録音されていた加持リョウジからの最後のメッセージを聞いていた。彼女の顔に、もはや傷心の色はない。彼がもはやいないことを受け入れ、NERVの秘匿している真実に迫る決意を固めたのだ。「鳴らない電話を気にしていらつくのは、もう止めるわ。——あなたの心、受け取ったもの」そしてその手には、加持から贈られた真実への鍵、マイクロチップがあった。



ミサトは、加持からの最後のメッセージを聞いていた。そして彼が電話をかけてくることが二度とないことを、ミサトは受け入れる

「確かにこのカプセルは俺のくれた。こいつは俺のすべた。加持がミサトへ送ったカプセル錠の中には、マイクロチップが入っていた。」



A.D.2015 ● NERV本部

04 リツコ、シンジを呼び出す

ゼーレによる屈辱的な尋問が終わった。リツコは、ゲンドウにとって自分よりもレイの方が大切な存在であるという事実を思い知る。それと共にリツコの心にどす黒い感情がわき上がり、ある企みを思いつく。そして自宅で待機しているシンジに電話をかけた。「あなたのガードを解いたわ。今なら外に出られるわよ」電話にでたシンジは、リツコに言われるままに、ある場所へ向かった。その場所とは——



ゼーレの尋問から解放されたリツコ。彼女にとって裸体をさらされたことよりも、ゲンドウに裏切られたことの方がショックだった

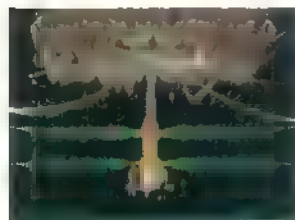
「リツコさん？」突然のリツコからの電話に戸惑うシンジ。リツコに生まれた黒い感情は、ゲンドウの息子であるシンジをも巻き込む



06 リツコ、ダミープラグの正体を明かす

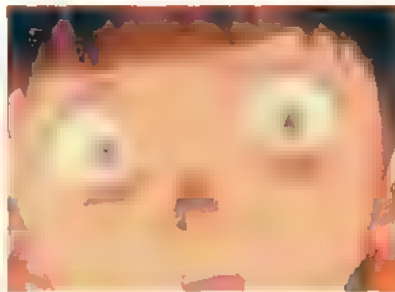
それは、多数の綾波レイの形をしたものだった

リツコが最後に案内したのは、等身大の試験管を思わせるプラントが設置された部屋だった。「これがダミープラグの元だというの？」だがミサトが驚くのはまた早かった。「真実を見せてあげるわ、リツコの手にしたリモコンが乾いた音を立てる。それによって部屋の壁一面に浮かび上がった水槽。その中に入っているのは「綾波、レイ」シンジが声を漏らす。これがダミープラグのコアとなるパーツであり、同時にレイのためのパーツであるとリツコは語った



リツコは奇妙な装置が置かれた部屋に、ミサトとシンジを案内した。

リツコが明かした真実は水槽の中に浮かんだくさんの綾波レイのクローン体だった



水槽の中にいる多数のレイの形をしたものと、眼目が合い、おぞましいさのあまりシンジは息を呑む。



間わず語りレイのこと、EVAのことなどを話すリツコ。その口元には自虐的な笑みか浮かんできた

07 リツコ、ダミープラグを破壊

「だから壊すの。憎いから」リツコが再びスイッチを押す。水槽が真っ赤に染まり多数のレイが朽ち果ててゆく。「そんなものにすら私は負けた。勝てなかったのよ」ゲンドウへの想いを吐露するリツコ。これはレイに思い入れるゲンドウへのリツコの復讐だった。



リツコの復讐によって、水槽の中のレイが朽ち果てていく



殺して欲しいと泣き崩れるリツコ。それはEVAにとり憑かれたものの悲劇であった

リツコ、シンジを呼び出す

リツコ、ターミナルドグマを案内する

リツコ、ダミープラグの正体を明かす

リツコ、ダミープラグを破壊

A.D.2015

●第3新東京市

08 アスカ、過去を回想する

それは惣流・アスカ・ラングレーの幼い頃、EVAパイロットに選出されたことを、暗れがましい気持ちで母へ報告に向かう幼い彼女。だが、迎えたのは物言わぬ母の姿であった。そして記憶は移る。「もう加持さんはいないんたっては!」シンジの叫ぶ声。アスカが憧れた男性はもういない……。

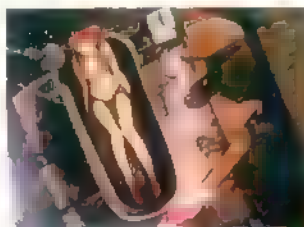


「私を見て!」息せき切った扉を開けた幼いアスカが目にしたのは、天井から下がる母の姿だった。

加持のことについてシンジと言った争ったアスカ。憧れた男性がこの世にいないことを、彼女は認めたくなかったのだ。

09 アスカ、NERV諜報部に保護される

行方を絶っていたアスカは、第3新東京市廃墟のバスルームに横たわっていた。その頬はこけ、瞳は虚ろだ。「シンクロ率、ゼロ。セカンドチルドレンたる資格無し……もう私がいる理由もないわ、自虐的な泣きをひとり漏らす。「誰も私を見てくれないもの」そんなアスカを、NERV諜報2課が保護した。



廃墟となったビルの中で、朽ちたバスルームに身を沈めるアスカ。今の彼女は完全な心身喪失状態であった。

1週間ロストしたアスカが、フィフスチルドレン全着予定日に発見されたことに、ミサトはきな臭さを感じる。

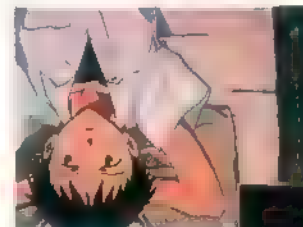


A.D.2015

●NERV本部

10 ゲンドウ、リツコを尋問する

シンジはレイのことを考え、父の真意を測りかねていた。その一方、ダミーシステムを破壊したリツコは拘禁され、ゲンドウが尋問を行っていた。理由を問うに失望したというゲンドウに、リツコは激昂する。「失望!? 最初から期待も望みも持たなかったクセに!」独房の暗闇の中、リツコはすすり泣く。



レイについて思いを巡らせるシンジは、レイの「感情」か、自分の母親と同じであることを悟る。



独房でゲンドウに愛憎をぶちまけるリツコ。それでもゲンドウは、冷やかな態度を崩さぬ。

A.D.2015

●NERV本部

13 カヲル、シンクロ率のテストに参加

シンジやレイと共に、フィフスチルドレン者カヲルのシンクロ率テストが行なわれた。彼はアスカに代わる式号機パイロットとして来たのだが、なんとコアの変換無しで高いシンクロ率をマークする。驚嘆するマヤにミサトは真顔で言った。「でも事実なのよ。事実を受けとめてから原因を探ってみて」



「よもやコアの変換も無しで、式号機とシンクロするとはな、カヲルのテスト数値に冬月も驚きを感じない。」

穏やかな笑みを浮かべているカヲル。「インストラクション内で瞑想するカヲル。その実力には裏があるのか?」



14 カヲル、レイと接触

テストが終わり着替えたカヲルは、レイと会っていた。相変わらず穏やかなカヲルだが「君は僕と同じだね。お互いにこの星で生きていくには、リリンと同じ体に行き着いたか」と、不可解な言葉をレイに投げかける。その2人の接触は、冬月によって執務室のゲンドウにも伝えられた。



レイに対しても気軽に話しかけるカヲル。だが、レイはとどこか警戒した様子で彼を見る。「あなた誰?」

「今フィフスのデータをMAGが全力を挙げて先送りにしている。ゲンドウに報告する冬月だが、結果は正体不明。」



A.D.2015

●第3新東京市

15 ミサト、カヲルの正体を調べる

一方ミサトも、独自にMAGIから情報を得てカヲルの正体を探ろうとしていた。「にもかかわらず、未だ正体不明。何者なの? あの少年」訝がるミサト。調査に行き詰まったミサトは、主の帰らぬままとなっているアスカとシンジの部屋を覗くと寂しげに呟いた「保護者失格ね、私」



自室のパソコンのモニターに見るミサト。フィフスのことが気にかかる彼女は、独自にその正体を探っていた。

「シンジくんも未だ帰らず、か」主のいない部屋を見てボロボロと漏らすミサト。共同生活は完全に崩壊していた。



2015年

アスカ、過去を回想する



アスカ、NERV諜報部に保護される



ゲンドウ、リツコを尋問する



シンジ、廃墟をさまよう



シンジ、カヲルと遭遇

A.D.2015

11 シンジ、廃墟をさまよう

夕日の中、シンジは廃墟と化した第3新東京市を歩いていた。理由はよく分らなかったが、とにかく誰かと話をしたかった。だが中学の友人はみな疎開して今はいない。アスカも行方不明。レイには会う勇気が出ない。「—アスカ、ミサトさん、母さん……僕はどうしたら どうすればいい？」シンジは途方に暮れる。



式号機を前に、シンジは行方の判らないアスカに会いたいと思っか何を話していいかわからず狼狽する

巨大なクレーンが湖と化した第3新東京市。その湖畔、立つシンジ。空の鳴き声や空へ耳にこたます

12 シンジ、カヲルと遭遇

その少年は 喜びの歌 を口ずさみながら、現われた

ベートーベン交響曲第9番「喜びの歌」のハミングがどこからともなく聞こえてくる。「歌はいいね。歌は心を潤してくれる」振り向いたシンジにハミングの主の少年は、気さくに語りかけてきた。「僕はカヲル。渚カヲル。君と同じ仕組みされた子供、フィフスチルドレンさ」と自己紹介する少年はシンジに言った。「カヲルでいいよ、碓くん」「僕も……シンジでいいよ」照れくさそうに応えるシンジに、カヲルは屈託無い笑顔で返すのだった。



シンジが湖畔で出会った少年は、フィフスチルドレン、渚カヲルと名乗る。彼はシンジのことを知っていた

◆第3中学校の制服を着た少年、渚カヲル。瞳の色はレイと同じ赤だ。



シンジ、再び友達と呼べずとも人間か、とみる。カヲルとは仲良くなれるよ、と気が乗った



カトレイン内でカヲル、シンジと密談する。サトと日向、カヲルは何か裏があるとミサトは睨む

A.D.2015

●NERV本部

A.D.2015

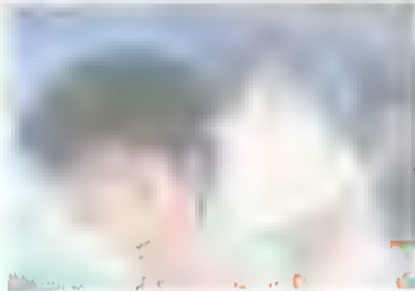
16 シンジ、カヲルと風呂に入る

カヲルに対して シンジは友情と信頼を感じていた

ゲート前でシンジはカヲルを待っていた。やって来たカヲルにシンジは本音を口にする。「本当はあんまり帰りたくないんだ」カヲルはもっと話したいと入浴に誘う。並んで湯船に入る2人。カヲルの手がシンジに触れる。「一次的接触を極端に避けるね君は。恐いのかい？人とふれあうのが」カヲルは続ける。「人間は淋しさを永久になくすことは出来ない。人は独りだからね。ただ忘れることが出来るから、人は生きてゆけるのさ」そして、そっとうシンジの手を握った。敏感に反応するシンジにカヲルは言う。「好意に値するよ」「好意？」「好きってことさ」



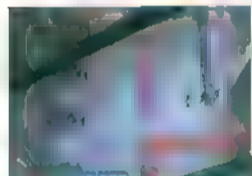
ゲートの前に座り込んで音楽を聴くシンジ。彼はカヲルを待っていた



一緒に湯船につかるシンジとカヲル。くっつくカヲルの横顔を、シンジははにかんだように見ている



シンジに対して、「好き」という言葉を口にするカヲル。シンジはトキリとして顔を赤らめた



帰宅、たくないと言ったシンジに、帰る家がある。うん、実は幸せ、繋がる。良いことだよ、とカヲルは穏やかに応えた

17 ゼーレ、NERVの処置を検討する

ゼーレはNERVやゲンドウについての処遇を審議していた。NERVとは、ゼーレのシナリオを実行するための組織であり、ゼーレの管理下になくはならなかった。だがゲンドウの行為は、ゼーレの思惑には適っていない。それは裏切りに等しい。「碓。ゼーレへの背任。その責任は取ってもらうぞ、キール議長の不敵な声が響く



漆黒の空間、浮かぶモニター。それは、口々、ゲンドウへの非難の声を上げる。彼らは何をやる気なのか？



「NERVとEVA」を本来の姿にしておかねはならぬ、来るべき約束の日、向け、ゼーレが動き出す

カヲル、シンクロ率のテストに参加

カヲル、レイと接触

ミサト、カヲルの正体を調べる

シンジ、カヲルと風呂に入る

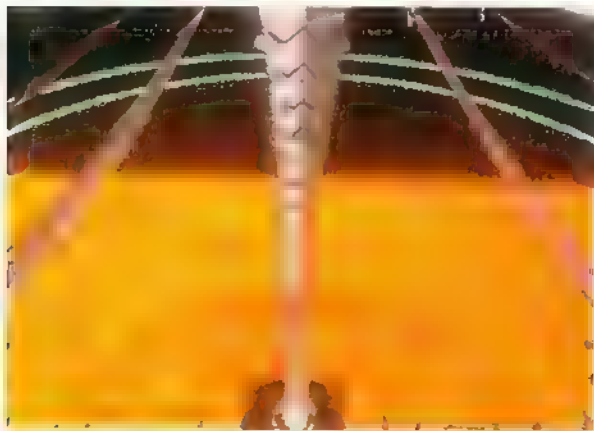
ゼーレ、NERVの処置を検討する

ターミナルドグマ

人類補完計画のために造られた特殊施設の概要

一般に情報公開されている部分が少ないNERV本部の施設ではあるが、その中でも最重要機密レベルに属する特殊エリアがセントラルドグマ終端部(即ちNERV本部の最深部に相当)に位置するターミナルドグマと呼ばれるエリアである。このターミナルドグマへの立ち入りは、NERV内部でもごく一部の者しか許されておらず、戦術作戦部作戦局第一課長という要職にある葛城ミサトでさえアクセスが認められていないほど、厳重なセキュリティが敷かれている。

深度2008メートルという大深度地下に置かれているターミナルドグマは、EVA運用に必要となっているL.C.L.の生産プラントやダミープラグに関連した開発生産施設が存在していると考えられている。また「人工進化研究所3号分室」なる施設や、未完成のまま破棄されたEVAの残骸が、今も残されており、ターミナルドグマの存在はNERVが組織される以前、国連直轄の人工進化研究所時代にまで遡ると推察できる。当時の人工進化研究所が手がけていた、いくつかのプロジェクト——E計画、アダム計画等——に関する研究や実験がなされていたと思われるが、その詳細は不明となっている。加えて、このエリアがNERV本部施設建設に伴いどのように拡充されたのかも明らかにはされていない。だが、ターミナルドグマには(持ち込まれた時期は不明であるが)人類の始源ともされるリリス——長きに渡りアダムであるとされてきた——が秘匿され、さらに西暦2015年に南極にてサルベージされたロンギヌスの槍の保管にも利用されていたという事実から、単なる研究開発施設として建造されたわけではなく、本質的には人類補完計画に関連した施設としての側面が強いことは明白であろう。こうした人類補完計画に関連したオブジェクトが置かれていることを鑑みれば、その立ち入りが著しく制限されていることも極めて妥当な措置といえるだろう。



- 綾波レイ
- アダム
- リリス
- L.C.L.プラント

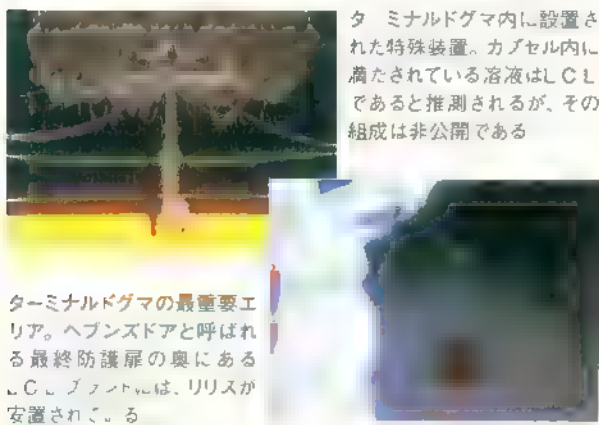


EVA零号機専属操縦者 経歴は不明 彼女の肉体は造られたものとも推測されているが その真相は不明である



**NERV本部における最重要機密
レベル施設の目的と性格**

L.C.L.プラント、ダミープラグ生体部品プラントの役割を担うとされるターミナルドグマだが、その実体は不明瞭と言わざるを得ない。例えば、秘密裏にリリスを保管している施設にはその体液が湖のように広がるが、「プラント」という言葉が持つイメージとはほど遠い。このエリアの出入り口を「ヘブズドア」と呼称している点から見ても、明らかに元よりリリスを保管するために建造されたと見るべきであろう。本部最下層、何十にも及ぶセントラルドグマの防護隔壁で厳重に守られている理由もそこにあると考えるのが妥当だ。一方、ダミープラグのコアとなる生体部品の製造プラントについても詳細は一切公開されておらず、綾波レイを被験者とした、生体部品に絡んだ何らかのテストあるいは研究が行なわれているとも言われるが、その真相は不明である。



ターミナルドグマ内に設置された特殊装置。カプセル内に満たされている溶液はL.C.L.であると推測されるが、その組成は非公開である

ターミナルドグマの最重要エリア。ヘブズドアと呼ばれる最終防護扉の奥にあるL.C.L.プラントには、リリスが安置されている

特記事項

施設のセキュリティについて

ターミナルドグマは、その重要性から極めて厳重なセキュリティがかけられている。その入り口にはアクセス許可を持ったIDカードが必要であり、アクセス許可されているのは最高司令官の碓ゲルバウ、副司令官の葛城コウジ、EVA関連開発責任者である赤木リツコ博士、そしてフォーストチルドレン綾波レイの4名だけに限られる。またヘブズドアの開閉にも、同じくアクセス許可を持ったIDが必要となるようだ。なお、これとは別に、資材等の搬入に利用されると考えられるEVAサイズの物体が昇降可能なシャフトが設けられており、必要に応じて地上より直接アクセスすることも可能である。しかも、これにも当然ながら厳格なセキュリティがかけられているようだ。



ターミナルドグマへの入り口にはアクセス許可を持ったIDカードが必要。無断侵入者に対しては無条件発砲が懸念されており、禁煙剤や電撃の罰金もしくは拘束の両方が科せられる



ターミナルドグマへの入り口にはアクセス許可を持ったIDカードが必要。無断侵入者に対しては無条件発砲が懸念されており、禁煙剤や電撃の罰金もしくは拘束の両方が科せられる

**NERV最深部に位置する
ターミナルドグマの施設**

NERV本部最深部に位置するターミナルドグマ。その区域はいくつかの施設が複合したものであるが、その内部は事実上非公開の特殊エリアだ。

ターミナルドグマは、NERV本部内でも最重要と位置づけられている区域である。それらは、主要任務である使徒殲滅作戦用の施設というよりは、人類補完計画のために設けられたものとしての側面が強い。これはターミナルドグマ内にリリスが置かれているエリアがあるためと思われる。また使徒がNERV本部を目指すのは、このリリスとの接触が目的と考えられており、サードインパクト阻止の意味においても最重要施設であるといえる。この他、綾波レイに関連したプラント装置が置かれた区画及びレイ用の医療設備跡など、ファーストチルドレンに関係した施設が集中しているのも特徴である。

ターミナルドグマ内の施設

EVA関連施設

ターミナルドグマ内にはEVA開発に関連したものと思われる区画が存在する。だが現在は使用されておらず、開発計画初期に製造されたものの破棄されたEVAのプロトタイプが未完成のまま多数放置されている。言うなれば「EVAの墓場」といった場所である。EVAの開発自体はNERV以前の人工進化研究所時代からE計画として進められてきたプロジェクトであるが、かつてはここがEVAの研究開発拠点となっていた可能性もあり得る



E計画初期段階で生産されたと思われるEVAのボディが未完成のまま多数破棄されている。ここが元々破棄を目的とした施設なのかは不明である

綾波レイ関連施設

ターミナルドグマ内の重要機密区画のひとつが、この綾波レイ関連施設である。複雑なパイピングが施されたヒトの脳を思わせるユニットと、それに接続された試験管状のカプセルで構成された中央プラントを持つ円形の部屋で、ゲントウはレイをこのカプセルに収め何らかの作業を行っていたようだ。周囲はL.C.L.と推察される溶液で満たされた水槽が設置され、そこでダミープラグ用のコアが培養されているとも言われる。なお床面には魔法陣の如き文様がカプセルを中心に描かれており、プラント作動時に床全体が発光し文様を描き出す



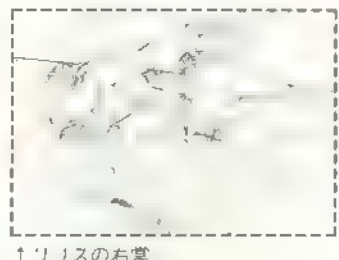
中央プラントのカプセル内に収められた綾波レイ。このプラントが、ダミープラグ製造に関係しているとも言われるが、その真偽は定かでない

L.C.L.プラント

ターミナルドグマ最下層にある巨大なホール状の施設がL.C.L.プラントであり、ここにリリスも保管されている。ヘブズドアと呼ばれる扉の奥に設けられたこのホールは、本質的にはリリスを保管しておくために建造されたと言えよう。内部には湖があり、ここで採取したものがL.C.L.に用いられているよったが、いわゆる生産設備状のものではなく生産方法は不明と言わざるを得ない。なおこの区画周辺には現在の南極と酷似した環境が擬似的に作られているエリアが設けられているが、その理由も不明である



L.C.L.プラントはEVAがそのまま内部に入って活動できるほど広い



↑リリスの右室



↑リリス



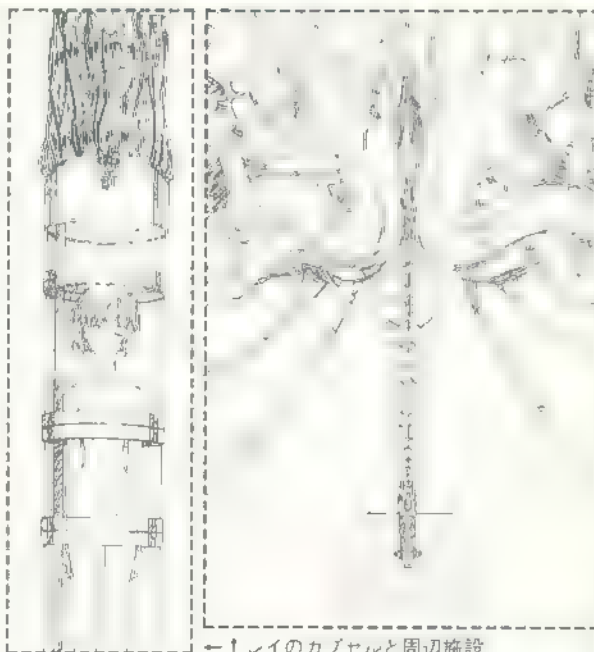
ターミナルドグマ内には「人工進化研究所3号分室」といった現在は破棄・閉鎖された区画が残されている。一方で、ダミープラグの開発製造も行なわれるなど、不可解な点の多い特殊なエリアである

人工進化研究所3号分室

医療関係の設備が整えられた、一見は医療関連施設を思わせる区画である。だが実際にはファーストチルドレン——綾波レイの養育用として設けられたものだったようだが、常識的な生活用品は一切なく、第3新東京市内にある綾波レイの自宅に似た雰囲気を持っている。ここも現在は使用されていないが、その名称はターミナルドグマがNERV設立以前の人工進化研究所時代から存在していたことを裏付けている



人工進化研究所3号分室内部。医療設備が揃っているが、打ち放しのコンクリートの壁、囲まれた線伐と室内は病室のイメージとはほど遠い



↑レイのカプセルと周辺施設





「プロト立案(草案)した計画に従い、サルベージの準備を進めるNERV職員たち。貴重な戦力であるEVA初号機及びその専属操縦者を救出すべく、作業は放棄が予測される状況に臨むも、

サルベージ

SALVAGE

サルベージとは、船舶の運用中におきた海難事故における救助活動、海難や火災などからの財貨の引揚げ、廃品回収などを指す。さらに現代においては、破損したデータなどの復旧作業を「データサルベージ」と呼称することもあるように、広義には「危険な状態から救い出すこと」と解釈できる。

NERVにおいては、この「サルベージ」という名を冠したEVA初号機、さらにその専属操縦者救出計画が2度に渡って展開された。そのひとつは、第12使徒レリエルの内部(虚数空間内部)に取り込まれたEVA初号機及び専属操縦者碓シンジの救出を目的とした「強制サルベージ作戦」。もうひとつは、第14使徒ゼルエルとの戦いの後、初号機と融合してしまった碓シンジを救出することを目的とした「サルベージ計画」である。

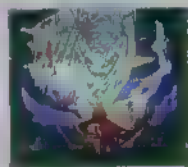
前者については、まずNERV技術開発部技術局第一課所属の赤木リツコ博士により、第12使徒本体内部に虚数空間があり、EVA初号機は別の空間

に繋がっているとされるこの空間に一時的に囚われているものと推測された。そのEVA初号機を救出する手段を模索したリツコは、弾き出された解析結果を基に、大量のm²爆雷とEVAのA.T.フィールドの相乗効果を利用し虚数空間に干渉することで、初号機をサルベージすることが可能である唯一の方法と試算した。ただし、この作戦はリツコ自身が「パイロットの生死は問わない」と口にした通り、シンジの「救出」よりも機体の「回収」に主眼を置いていたものであった。ただし、結果的に初号機が自力で脱出したため、実際にはこの作戦が実行されることはなかった。後者については、まず2日間を要したプラグ内の詳細な分析結果から、初号機と融合したシンジは救出可能と判断されてサルベージ計画の準備が開始された。ただし、計画自体は「L.C.L.に干渉し、肉体の再構成と魂の定着を行なう」という人知を超えたものと言え、10年ほど前、ほぼ同様のケースでサルベージ計画が実行された際には、対象であった碓ユイの救出には失敗するという結果に終わっていた。リツコはこの計画を遂行するための要綱「EP2式サルベージ作業手順要綱(含、LP3式補完

手順)」を立案からわずか1ヶ月弱で作成し、シンジが初号機と融合してから31日目、ついに計画が実行された。計画自体は成功とは言い難かったが、結果的にシンジは予想外の生還を果たしている。

結論のみをいえば、どちらのサルベージも分析、考察、立案自体すら困難な事案ではあった。しかし、西暦2015年においては突出した技術力を誇ると思われるNERVでも、計画進行によるサルベージを果たすことはなかったのである。これらは、ヒトの科学の限界を示す事案であると共に、人智を超えたEVAの能力——特に、唯一、リリスから造られたと考えられている初号機のメカニズムを、NERVですら解明できていないということの証左ともいえるだろう。

- EVA初号機
- 碓シンジ
- 碓ユイ
- 赤木リツコ



接触実験時に碓ユイが取り込まれた、紫の機体色を持つEVAのテストタイプ。専属操縦者はサードチルドレンの碓シンジ

初号機は、リットコが「ディラックの海」に干渉し、初号機を救出することを目的としたのが強制サルベージ作戦である。

初号機強制サルベージ作戦

学術的な基本概念は物理学者のポール・ディラックにより提唱されていた「ディラックの海」——第12使徒が形成すると考えられる直径680m、厚さ約3nm（ナノメートル）の虚数空間を、リットコはそう呼んだ。その虚数空間に干渉し、初号機を救出することを目的としたのが強制サルベージ作戦である。ただし、そのために膨大なエネルギーを用いても、虚数回路に干渉できる時間はわずか1/1000秒という、非常に困難な作戦であったといえるだろう。

虚数空間に干渉し、初号機を救出するリットコ。超弦理論と関連があるのが「ストリングス」という単語も確認できる。



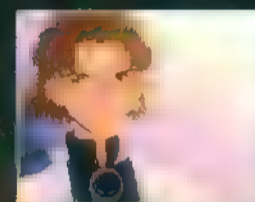
初号機強制サルベージ作戦

作戦現場にて立案された強制サルベージ作戦。n²爆雷992個、零号機と式号機を用いた大規模な作戦は、リットコの直接指揮による決行を予定していた。実際には作戦は決行されな

かったが、虚数空間への干渉という未曾有の作戦であると同時に、1/1000秒というわずかな時間を稼ぎ出すことが人類の科学の限界であったことを示す作戦でもあった。

分析と作戦の立案

現場において、初号機が虚数空間に囚われていると推測したリットコ。さらに虚数空間に干渉し、使徒を形成する「ディラックの海」ごと破壊するという救出作戦を立案する。撤退から状況の分析、作戦の立案、作戦準備に要した時間は、わずか16時間程度であった。



パイロットの生死は問わないと語るリットコ。最悪の場合、機体が寸断されることも想定された。

最終的な作戦結果

n²爆雷投下まで60秒という実質的な作戦決行の直前に、第12使徒の影に亀裂が発生。暴走した初号機は自力で脱出した。リットコが立案した作戦の成否が確認されることはなかったものの、EVAという兵器の未だ解明されていない能力を確認する結果となった。



EVAの育成を目的とした一部の関係者は、その存在への懐疑を深めることとなった。

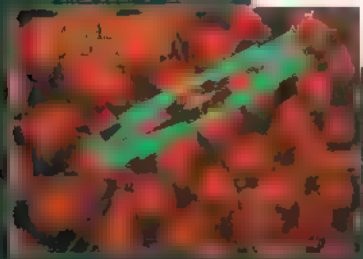
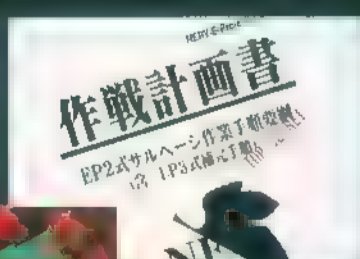
作戦はまず、既存する992個のn²爆雷を使徒中心部へと投下。さらにストリングスを合わせ、零号機と式号機のA.T.フィールドで使徒のA.T.フィールドに干渉。その瞬間に爆発エネルギーを集中し、使徒を「ディラックの海」ごと破壊するというものだった。

目的としたサルベージ

初号機搭乗者サルベージ計画

暴走により、第14使徒を殲滅した初号機。しかし、その勝利の代償は大きく、シンジは初号機に取り込まれてL.C.L.と同化し、その肉体を失ってしまう。リットコはかつて同様の事案に用いられた赤木ナオコが立案した計画を基に、あらたな計画を立案。原始的な海水——生命のスープに酷似したL.C.L.内に、自我境界線を失った状態で溶け込んでいるシンジの肉体を再構成し、そこに魂を定着させるというサルベージ計画が決行されることとなる。魂と呼ぶべき、ある意味概念的な存在に、科学によるアプローチを試みた、非常に稀な計画といえるだろう。

リットコにより、一ヶ月弱もの時間を費やして立案されたサルベージ計画の要綱。書類上の正式名称は「EP2式サルベージ作業」と記さ



シンジの自我境界/魂に外部から干渉し肉体の再構成を試みたものの、干渉信号はクライン空間に消えられ、肉体還元プロセスには至らなかった。

初号機搭乗者サルベージ計画

詳細な分析結果を踏まえた上で立案されたサルベージ計画。NERVの誇るMAGIのサポートもあり、理論上は救出可能と判断したリットコは、第14使徒戦から31日目に計画の決行に踏み

切る。シンジは予想と大きく異なるかたちで生還を果たしたが、立案されたサルベージ計画が何らかの形で魂と呼ぶべき存在に影響を与え、プラスに作用したものと推測される。

分析と最終的な作戦結果

L.C.L.内にシンジの肉体を構成する要素と魂が共に存在すると分析したリットコは、2004年に実行されたデータを基に、それらを再構成、定着させるというサルベージ計画を立案。決行時、デストロイ反応を起こしプラグが強制排出されるという事態を招いたものの、結果的にシンジは生還を果たした。



プラグから流出するL.C.L.。しかし、異変が起きたかと思われたシンジは奇跡的に生還を果たした。

作戦はまず、干渉信号をEVA（エントリープラグ内のL.C.L.）へと送信。自我境界/魂へと働きかけ、L.C.L.内に溶け込んだ肉体の再構成を行なう。その後、魂を肉体に定着させるというプロセスが予定されていたものと推測される。

追加報告

シンジ生還の要因

初号機に取り込まれたシンジは自身の存在理由への葛藤等の思考を繰り返しつつ生み出された心理的イメージを知覚していたと考えられている。このイメージがサルベージ計画にアクセントを及ぼしたようだが、その後、彼は母の声に導かれるようになり生還を果たす。彼が奇跡的に生還を果たした陰には、サルベージ計画による外部からの刺激、さらには母のイメージが少なからず影響を及ぼしたと見るべきだろう。



初号機胸部から突如として、生還を果たしたシンジ。彼が心理的イメージとして知覚したユイは、彼自身の幼い頃の記憶が再構成されたものとも、初号機に取り込まれたとされるユイ自身とも考えられる。

マイクロチップ

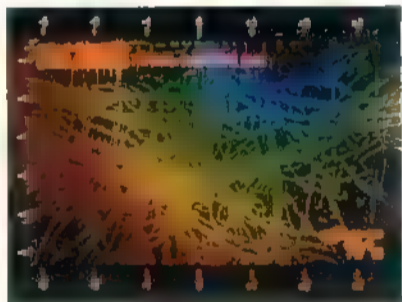
NERV、ゼーレ、政府の3重スパイとして活動していた加持リョウジは、36の手段を使って自身が手に入れた真実の情報を葛城ミサトに託そうと試みていた。しかし、確実に届いたのはミサトとふたりきりのときに直接渡したカプセル内のマイクロチップだけであり、そのことは加持も予想済みだったと思われる。チップのパスワードは加持とミサトの「最初の思い出」とだけ伝えているため、ミサト以外にこのチップの情報を得られる者はいなかっただろう。



加持の8年ぶりのプレゼントは、ミサトが知りたがっていたNERVの真実である。彼女はチップと一緒に加持の心も受け取ったようだ。

マイクロマシン

ミリ単位以下の微小化された機械システムのこと。赤木リツコは第11使徒イロウルをマイクロマシンであると述べており、事実、サブコンピュータ、メインバンク、MAGIと次々にハッキングしたイロウルは非常に高性能なマイクロマシンであると考えられる。産業や医療など応用分野は幅広く、分子レベルでの作業を可能にするナノマシンも広義ではマイクロマシンである。



進化しながら増殖するイロウルは機械であると同時に生物としての側面も持っていた。そのサイズは赤血球と同じ大きさの10 μm以下

マイトーシス

細胞分裂のこと。NERVにおけるEVAの修復およびメンテナンスにおいて、マイトーシス作業、アポトーシス作業＝細胞自己死、ネクローシス作業＝細胞壊死という名称が使われている。そのためEVAは生物と同じように細胞の構築や修復がなされると思われ、細胞を単位とする生体組織であると推測される

マイ♥ハニーへ

第7使徒イスラフェルとの初戦でマゼマに敗北、NERVの面子を潰した左遷の危機を迎えた葛城ミサトのもとへ、赤木リツコが持ってきたフロッピーに書かれていた言葉。フロッピー内には加持リョウジが考案したイスラフェル殲滅のアイデアが入っていた。この作戦に沿って碇シンジと惣流・アスカ・ラングレーが特訓を行ない、見事に使徒を殲滅。ミ

サトは左遷を免れている



呆れながらもフロッピーを受け取り、「マイ♥ハニーへ」の文字を優しく見つめるミサト。一方リツコは彼女の女としての表情を見逃さなかった

MAGI

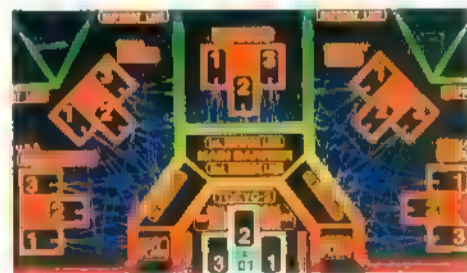
独立した3基のコンピュータから成り立つ、NERV本部内のスーパーコンピュータシステム。赤木ナオコ博士によって開発された、第7世代の生体コンピュータに個人の人格を移植して思考させる人格移植OSの第1号。基礎理論と本体をナオコが造り上げ、娘のリツコがシステムアップした。各基にはMELCHIOR (メルキオール)、BALTHASAR (バルタザール)、CASPER (カスパー) という名がつけられ、それぞれに赤木博士自身の“科学者としての思考パターン”“母としての思考パターン”“女としての思考パターン”が移植されている。判断を下す際には対立モードという3基の合議制による多数決が行なわれるため、3基の人格の違いや人間としてのジレンマが反映されるようになっており、これこそが人格移植OSの特徴と考えられる。各基の名前の由来は、「マタイによる福音書」に記されたイエス・キリストの誕生直後に馬小屋の中で眠るキリストのもとを訪れる東方の二賢者 (三博士) を指すマジより。なお、メルキオールは青年の姿で王権の象徴たる黄金を、バルタザールは壮年の姿で神性の象徴たる乳香を、カスパーは老人の姿で受難の死の象徴たる没薬をイエスに捧げたとされる



人間の脳のような外観を持つMAGI MAGI管理室内部には赤木ナオコ博士の残ったMAGIの裏トと巨大なメモが貼られている

MAGIタイプ

NERV本部にあるオリジナルのMAGIを模して作られたスーパーコンピュータシステムの総称。少なくとも松代の2号ベルリンの3号、マサチューセッツの4号、ハンブルクの5号北京の6号が存在し、本部と同じくNERV支部の運営や作戦に関する司令塔としての役割を担っていたと考えられる。また、人類補完計画発動直前、ゼーレの指示によってオリジナルのMAGIにハッキングを仕掛けてきた



MAGIタイプは各所から同時にオリジナルのMAGIへ侵入を試みたが、赤木リツコのソフトウェアプログラムによって阻止された

マグマダイバー

第3話のサブタイトル。浅間山火口からマグマの中に潜っ

ていくD型装備のEVA式号機を表している。英文タイトルは「MAGMADIVER」。なお、このタイトルは、アメリカのSF小説家であり宇宙科学博士であるデイヴィッド・ブリンの著書で、太陽に存在する未知の生命を調査するという物語の「サンダイバー」に因んでいると考えられる



浅間山は安山岩質マグマのため温度は約1100℃。式号機はそのマグマ内で使徒捕獲作戦にあたった

まごころを、君に

「新世紀エヴァンゲリオン 劇場版 THE END OF EVANGELION」における、第26話のサブタイトル。「ONE MORE FINAL」と銘打たれているように、人類補完計画のもうひとつの終局の可能性を示した。タイトルは、SF小説家ダニエル・キイスの著作「アルジャーノンに花束を」が映画化された際、日本公開用につけられた邦題「まごころを君に」から引用されていると思われる。英文サブタイトルは「I need you」。「まごころを、君に」とは正反対の意味ともとれるが、どちらも二人称が使われているところから、終局を迎えた碇シンジと惣流・アスカ・ラングレーそれぞれの心情を表したものと解釈することも可能かもしれない



人類がひとつになることを拒み、他人を欲したシンジの側に横たわるアスカ。君、そ、てyouとは、誰を指すのだからか

街

冬月コウゾウは「自分を死の恐怖から守るため、自分の快楽を満たすため、自分たちで作ったパラダイス」と街を語り、第3新東京市を「自分たちを守る武装された街」と話す。一方、碇ゲンドウは「敵だらけの外界から逃げ込んでいる臆病者の街」と語る



碇ゲンドウは最も弱い生物か弱さゆえ手に入れた知恵で作った人類の楽園と街を称していた

松代

NERVの実験場がある長野県長野市の地名。第2実験場では、鈴原トウジが搭乗するEVA3号機の起動実験が行なわれた。なお、第二次世界大戦末期に、皇居や大本営など国の

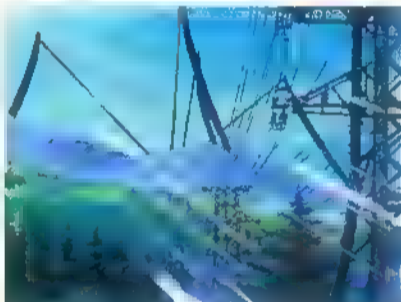
中枢機能を松代に移転する計画が立てられ、当時の建物や地下壕が現在も残る



緑の多い豊かな自然に恵まれた山間に、NERV松代実験場はある

マトリエル

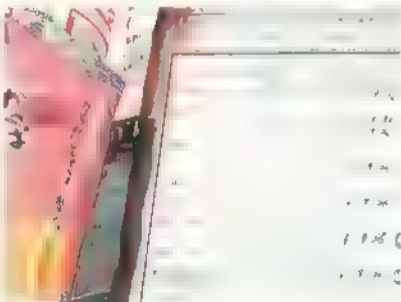
太平洋上より現れ、日熱海方面より第3新東京市へ侵攻してきた第9使徒。半球型の胴体にクモのような長い脚というフォルムを持ち、地表を移動する。胴体部分には“三角形の中に青い瞳の目”という独特のシンボルが見られ、その目から溶解液を尿のように分泌、装甲板を溶かしてNERV本部への侵入を図った。この当時、本部は大規模な停電により機能が麻痺していたものの、碇ゲンドウの機転によりEVAの発進準備が整っていたため初の3機同時展開が行われた。EVA零号機がバックアップ、EVA初号機がオフェンス、EVA式号機がディフェンスという見事な連携を見せ、初号機の放ったバレットライフルで殲滅された。なお、マトリエルとはユダヤ、キリスト教伝承における「雨」を司る天使の名前に由来している。



本体から伸びた4本の脚はかなり長く、小山をしのぐ大きさを誇るマトリエル

マルドゥック機関

エヴァンゲリオン操縦者選出のために設けられた、人類補完委員会直属の諮問機関。しかしながら組織の実体は不透明である。加持リョウジの得た調査結果によると、マルドゥックとつながる108の機関のうち106がダミーであるという。また、107番目の機関である外資系のケミカル会社、シャノンバイオの取締役登記簿には、碇ゲンドウ、冬月コウゾウ、キール・ローレンツなど人類補完計画関係者の名前が並んでいる。なお、「マルドゥック」とは古代バビロニアにて信仰されていた神の名であり、ふたつの顔と多くの名前を持つという。



登記日は6年9月26日となっている。ゲヒルン発足に前後して、マルドゥック機関も組織されたのかもしれない。

マルドゥックの報告書

エヴァンゲリオン操縦適格者に関する調査をまとめたマルドゥック機関の書類のこと。しかし、機関自体が実体のない

ものであったため、この報告書は人類補完委員会、実質NERV内部によって作られているものと考えられる。使徒であった渚カヲルが委員会より送り込まれてきた際には、フィフスチルドレンに関する項目を非公開とするなど、書類には作為が感じられる。



「4人目を選ぶか」「ダミーブラッパを前にして碇ゲンドウのつぶやきから、適格者は必要に応じて適宜選び出され、マルドゥック機関の報告書」という体裁で公認されるものと考えられる。

マルボルジェ

NERV本部セントラルドグマの施設。第17使徒タブリスがEVA式号機を伴ってセントラルドグマを降下中、その侵入を防ぐ目的でマルボルジェ全層の隔壁が緊急閉鎖された。なお、「マルボルジェ」はダンテの「神曲・地獄篇」に登場する、第8番目の地獄より。「マルボルジェ=悪の囊」は10の囊に分かれており、偽造や盗みを行なった者など10の罪に問われた者たちが、それぞれ異なる方法で地獄の責めに遭う場所である。また、マルボルジェの先にある最下層の地獄コキュートスも、セントラルドグマの施設の名前に使われている。

万田

日本国内務省長官。日本重化学工業共同体が生み出したJ.A.に対する最高権限を持つと推測される。J.A.暴走時、時田シロウがテリートパスワードの使用許可を万田に申請しようとしたが、取り合わずに他所へたらい回しにした。



万田のあと、八杉、ヨシザワと次々に許可を取る先が変わり、お役所仕事の内情が露呈する。J.A.稼働失敗の責任をなすり付け合っているようだ

マンモス団地

綾波レイの住居がある団地。取り壊しが進んでいるため人が住んでいる形跡はあまり感じられない。室外機のある部屋は少なく、通常の団地に見られるようなベランダの洗濯物や鉢植えなども一切見あたらない。窓枠が外れている部屋もあり、廃墟のような様相である。レイはこの団地の一棟にある402号室でひとり暮らしをしているが、彼女の部屋の壁はコンクリートがむき出しになっており、生活臭のない無味乾燥な部屋である。



同じ形状の建物が数多く連なる巨大な団地で、常に作業音が聞こえている。道路を挟んだ左側の団地は既に解体済み

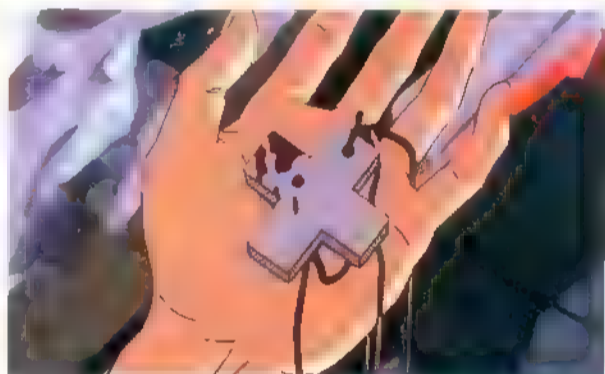
み

ミサイル陣地

第3新東京市の山腹に備え付けられたミサイル発射装置群。都市部のビル群と同じく、平時には山の内部に格納されるようになっている。第4使徒シャムシエル侵攻時にも、箱根ロープウェイを改造して作られた対空機銃と共に稼働。しかし、使徒への効果はないに等しく、冬月コウゾウは「税金の無駄遣い」と一蹴している。迎撃システムも参照。

ミサトのペンダント

葛城ミサトが持っている父の形見のペンダント。かつてミサトは南極調査中の父と共にセカンドインパクトに巻き込まれ、南極にいた人々の中で唯一生き残ったという過去を持つ。その際、自分の命と引き換えにミサトを救った父からペンダントを手渡されており、以後常に身に付けていたようだ。さらに、戦略自衛隊によるNERV侵攻時、自身もまた身を呈して碇シンジを守り、ペンダントを彼に預けている。なお、サードインパクトの発生で人類がひとつになったL.C.L.の海の中、具現化されたペンダントはシンジの左手に握られていた。彼は他人の存在を望み、その世界で航のようなものに打たれた十字架は、あたかも墓標のように見える。



ミサトに預けられた十字架のペンダント。まるで婚約指輪のようにその紐はシンジの薬指に巻かれていた

見知らぬ、天井

第2話のサブタイトル。第3使徒サキエルとの戦いを経験し、一時的に記憶を失った碇シンジは病院で目を覚ました。病室の見慣れぬ天井はEVAへの搭乗が現実であることを意味し、シンジの住まいとなったミサトの部屋の天井もまた、彼に使徒との戦いを思い起こさせるものだった。英文サブタイトル「THE BEAST」のBEASTとは本来「獣」という意味であるが、聖書の黙示録では定冠詞がついた形で「キリストの敵=悪魔」の意を表している。暴走した初号機の野獣のような様と共に、神に等しい敵、つまり使徒の襲来を暗示させるタイトルであると考えられるだろう。



現実から隔離されたかのような白い病室と、白い天井。ミサトの部屋にもこの病室と同じような蛍光灯があり、シンジの記憶を蘇らせるきっかけになったようだ



新世紀エヴァンゲリオン

放映リスト

シリーズスタッフ

SERIES STAFF

企画・原作

GAINAX

企画

Project Eva.

掲載

角川書店 月刊 少年エース

キャラクターデザイン

貞本義行

メカニックデザイン

山下いくと 庵野秀明

副監督

摩砂雪 鶴巻和哉

美術監督

加藤浩

色彩設定

高星晴美

撮影監督

黒田洋一

音響監督

田中英行

音響制作

オーディオタナカ

音楽

鷺巣詩郎

音楽協力

テレビ東京ミュージック

広報

穴見礼(テレビ東京) 佐藤裕紀(GAINAX)

アニメーション制作

タツノコプロ GAINAX

プロデューサー

小林教子(テレビ東京) 杉山豊

総監督

庵野秀明

製作

テレビ東京 NAS

アニメーションプロデューサー

植田もとき 内山秀二 山賀博之

キャスト

CAST

碇シンジ

緒方恵美

葛城ミサト

三石琴乃

赤木リツコ

山口由里子

綾波レイ

林原めぐみ

惣流・アスカ・ラングレー

宮村優子

碇ゲンドウ

立木文彦

冬月コウゾウ

清川元夢

日向マコト

結城比呂

伊吹マヤ

長沢美樹

青葉シゲル

子安武人

加持リョウジ

山寺宏一

キール・ローレンツ

麦人

鈴原トウジ

関智一

相田ケンスケ

岩永哲哉

洞木ヒカリ

岩男潤子

赤木ナオコ

土井美加

渚カヲル

石田彰

教師

丸山詠二

時田シロウ

大塚芳忠

オーバー・ザ・レインボウ艦長

西村知道

オーバー・ザ・レインボウ副長

山野井仁

アスカの父

関俊彦

惣流・キョウコ・ツェッペリン

川村万梨阿

女医

勝生真沙子

人類補完委員

清川元夢 長嶺高士 鈴木勝美
永野広一 子安武人 ほか

オープニング&エンディングスタッフ

OPENING AND ENDING STAFF

オープニングテーマ

残酷な天使のテーゼ

歌：高橋洋子 作曲：佐藤英敏
作詞：及川眠子 編曲：大森俊之

オープニングアニメーション

絵コンテ：庵野秀明

作画：本田雄 長谷川真也

演出：鶴巻和哉



エンディングテーマ

FLY ME TO THE MOON

歌：CLAIRE
作曲：Bart Howard
作詞：Bart Howard
編曲：Toshiyuki Ohmori

エンディングアニメーション

摩砂雪



各話スタッフ

STAFF.

第壹話
使徒、襲来

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:1
ANGEL ATTACK

第貳話
見知らぬ、天井

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:2
THE BEAST

鳴らない、電話
第参話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:3
A transfer

雨、逃げ出した後
第四話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:4
Hedgehog's Dilemma

レイ、心のむこうに
第伍話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:5
Rei I

決戦、新東京市
第六話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:6
Rei II

人の造りしもの
第七話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:7
A HUMAN WORK

アスカ、来日
第八話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:8
ASUKA STRIKES!

①サブタイトル ②英文タイトル
③話数(初放映日)/主要スタッフ



ANGEL ATTACK

第壹話
(放映日:95.10.4)
脚本:庵野秀明
絵コンテ:摩砂雪、庵野秀明
演出:鶴巻和哉
作画監督:鈴木俊二

THE BEAST

第貳話
(放映日:95.10.11)
脚本:榎戸洋司、庵野秀明
絵コンテ:摩砂雪、庵野秀明
演出:鶴巻和哉
作画監督:本田雄

A transfer

第参話
(放映日:95.10.18)
脚本:藤川昭夫、庵野秀明
絵コンテ:鶴巻和哉、石堂宏之
演出:石堂宏之
作画監督:相井信宏

Hedgehog's Dilemma

第四話
(放映日:95.10.25)
脚本:藤川昭夫
絵コンテ:碓目喜一
演出:加賀ツヨシ
作画監督:豊田賢

Rei I

第伍話
(放映日:95.11.1)
脚本:藤川昭夫、庵野秀明
絵コンテ:碓目喜一
演出:杉山慶一
作画監督:鈴木俊二

Rei II

第六話
(放映日:95.11.8)
脚本:藤川昭夫、庵野秀明
絵コンテ:摩砂雪
演出:石堂宏之
作画監督:相井信宏

A HUMAN WORK

第七話
(放映日:95.11.15)
脚本:榎戸洋司、庵野秀明
絵コンテ:杉山慶一、庵野秀明
演出:杉山慶一
作画監督:鈴木俊二

ASUKA STRIKES!

第八話
(放映日:95.11.22)
脚本:榎戸洋司、庵野秀明
絵コンテ:樋口真嗣
演出:鶴巻和哉
作画監督:本田雄

瞬間
心、重ねて

第九話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:9
Both of You,
Dance Like You Want to Win!

マグマ
ダイバー

第拾話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:10
MAGMADIVER

静
止した闇の
中で

第拾壹話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:11
The Day Tokyo-3 Stood Still

奇跡の価値は

第拾貳話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:12
She said, "Don't make others suffer
for your personal hatred."

使徒、侵入

第拾参話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:13
LILLIPUTIAN HITCHER

ゼー
レ、魂の座

第拾四話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:14
WEAVING A STORY

嘘と沈黙

第拾伍話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:15
Those women longed for the touch of
others' lips, and thus invited their kisses.

死に至る
病

第拾六話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:16
Splitting of the Breast

四人目
の適格者

第拾七話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:17
FOURTH CHILDREN

Both of You, Dance Like You Want to Win!

第九話

(放映日: 95.11.29)

脚本: 藤川昭夫、庵野秀明

絵コンテ: 樋口真嗣

演出: 水島精二

作画監督: 長谷川真也

MAGMADIVER

第拾話

(放映日: 95.12.6)

脚本: 藤川昭夫、庵野秀明

絵コンテ: 加賀ツヨシ、庵野秀明

演出: 加賀ツヨシ、石堂宏之

作画監督: 重田智

The Day Tokyo-3 Stood Still

第拾壹話

(放映日: 95.12.13)

脚本: 藤戸洋司、庵野秀明

絵コンテ: 摩砂雪

演出: 渡邊哲哉

作画監督: 河口俊夫

She said, "Don't make others suffer for your personal hatred."

第拾貳話

(放映日: 95.12.20)

脚本: 藤川昭夫、庵野秀明

絵コンテ: 摩砂雪

演出: 石堂宏之

作画監督: 重田智

LILLIPUTIAN HITCHER

第拾参話

(放映日: 95.12.27)

脚本: 磯光雄、藤川昭夫、庵野秀明

絵コンテ: 岡村天斎

演出: 岡村天斎

作画監督: 黄瀬和哉

WEAVING A STORY

第拾四話

(放映日: 96.1.3)

脚本: 庵野秀明

絵コンテ: 庵野秀明

演出: 大塚雅彦、安藤健

作画監督: 鶴巻和哉

Those women longed for the touch of others' lips, and thus invited their kisses.

第拾伍話

(放映日: 96.1.10)

脚本: 藤川昭夫、庵野秀明

絵コンテ: 碓井喜一

演出: 羽生尚靖

作画監督: 鈴木俊二

Splitting of the Breast

第拾六話

(放映日: 96.1.17)

脚本: 山口宏、庵野秀明

絵コンテ: 鶴巻和哉

演出: 鶴巻和哉

作画監督: 長谷川真也

FOURTH CHILDREN

第拾七話

(放映日: 96.1.24)

脚本: 樋口真嗣、庵野秀明

絵コンテ: オグロアキラ

演出: 大塚実

作画監督: 花畑まう

第拾八話
**命の
選択を**

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:18
AMBIVALENCE

第拾九話
男の戦い

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:19
INTROJECTION

**心のかたち
人のかたち**
第貳拾話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:20
WEAVING A STORY 2: oral stage

セルフ、誕生
第貳拾壹話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:21
He was aware that he was still a child.

せめて人間らしく
第貳拾貳話

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:22
Don't Be.

第貳拾参話
涙

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:23
Rei III

最後のシ者

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:24
The Beginning and the End,
or "Knockin' on Heaven's Door"

第貳拾伍話
終わる世界

NEON
GENESIS
EVANGELION
EPISODE:25
Do you love me?

最終話
**世界の中心で
アイを叫んだ
けもの**

NEON
GENESIS
EVANGELION
FINALE:
Take care of yourself.

AMBIVALENCE

第拾八話
(放映日: 96.1.31)
脚 本: 樋口真嗣、庵野秀明
絵コンテ: 岡村天斎
演 出: 岡村天斎
作画監督: 黄瀬和哉

INTROJECTION

第拾九話
(放映日: 96.2.7)
脚 本: 藤川昭夫、庵野秀明
絵コンテ: 摩砂雪
演 出: 摩砂雪
作画監督: 本田雄

WEAVING A STORY 2: oral stage

第貳拾話
(放映日: 96.2.14)
脚 本: 庵野秀明
絵コンテ: 鶴巻和哉、庵野秀明
演 出: 大塚雅彦
作画監督: 鶴巻和哉

He was aware that he was still a child.

第貳拾壹話
(放映日: 96.2.21)
脚 本: 藤川昭夫、庵野秀明
絵コンテ: 基目喜一
演 出: 石堂宏之
作画監督: 重田智

Don't Be.

第貳拾貳話
(放映日: 96.2.28)
脚 本: 山口宏、庵野秀明
絵コンテ: 鶴巻和哉
演 出: 高村彰
作画監督: 花畑まう

Rei III

第貳拾参話
(放映日: 96.3.6)
脚 本: 山口宏、庵野秀明
絵コンテ: 鶴巻和哉、庵野秀明
演 出: 増尾昭一
作画監督: 鈴木俊二

The Beginning and the End, or "Knockin' on Heaven's Door"

第貳拾四話
(放映日: 96.3.13)
脚 本: 藤川昭夫、庵野秀明
絵コンテ: 摩砂雪、庵野秀明
演 出: 摩砂雪
作画監督: 摩砂雪

Do you love me?

第貳拾伍話
(放映日: 96.3.20)
脚 本: 庵野秀明
絵コンテ: 鶴巻和哉、庵野秀明
演 出: 鶴巻和哉
作画監督: 本田雄

Take care of yourself.

最終話
(放映日: 96.3.27)
脚 本: 庵野秀明
絵コンテ: 摩砂雪、鶴巻和哉、庵野秀明
演 出: 摩砂雪、鶴巻和哉